

証券コード:5401



新日鐵住金

NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL

2016年度 決算説明会

代表取締役副社長
榮 敏治

2017年4月28日

特に断りのない限り、本資料中の財務数値は連結数値

1. 2016年度決算
2. 2017年度経営環境
3. 中期経営計画の進捗状況
4. 参考

1. 2016年度決算

2016年度決算の概況

事業環境

- 国内鉄鋼需要 : 建設向けや自動車向けを中心に増加
1Qを底に回復基調で推移し、堅調に推移。対前年度1百万トン程度の増加
- 海外鉄鋼需要 : ASEAN諸国は緩やかに回復、減少の続いていた中国内需も景気対策効果等で底堅く推移
国際市況は、昨年初に底打ちし、上昇基調が継続
特に、2Q以降の原料炭価格高騰の影響に加え、鋼材需給の改善もあり、3Q以降更に上昇
足元在庫調整に起因した軟化の動きがみられるものの、需要堅調のため一過性の事象と認識

トピックス

- 日新製鋼 :
 - ▶ TOB(2/3~3/6 8.3⇒51%)完了 3/13子会社化
 - ▶ 共通の事業方針のもと、一体的な事業活動を推進
- バローレック:
 - ▶ 3/28 当社推薦者が取締役候補者に決定(V社株主総会 5/12)
 - ▶ バローレック社従業員への新株発行により当社議決権比率 15⇒14.9%
⇒ 当面の間、持分法適用会社の対象外、 戦略的提携策は予定通り進捗中
- 三菱製鋼室蘭特殊鋼:
 - ▶ 鋼片委託数量増・品質確保のための技術供与等⇒室蘭地区生産体制最適化
 - ▶ 議決権割合11⇒30% 持分法適用会社化

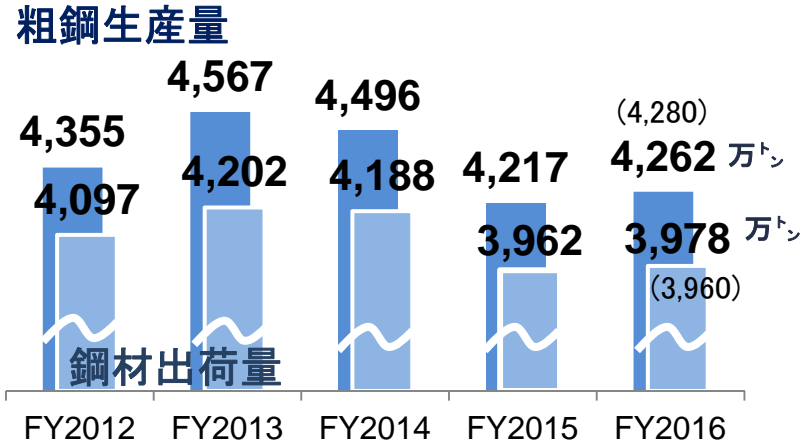
決算概況

- 16年度実績 : 経常利益 1,745億円、 当期利益 1,309億円* (148.0円/株)
ROS=3.8%、 ROE=4.6%、 D/E=0.71 (日新等連結影響除き 0.63)
- 当期末の配当 : 45円/株 (年間配当金45円/株、連結配当性向30.4%)

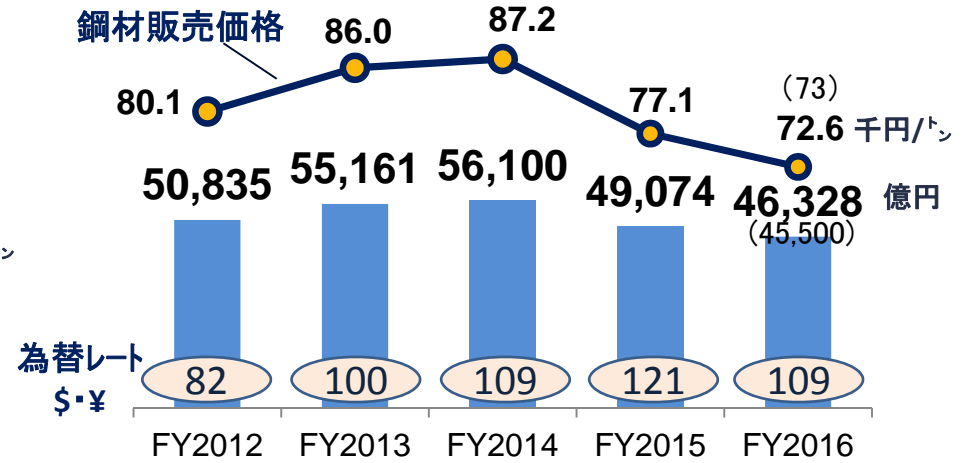
* 親会社株主に帰属する当期純利益

主要指標推移

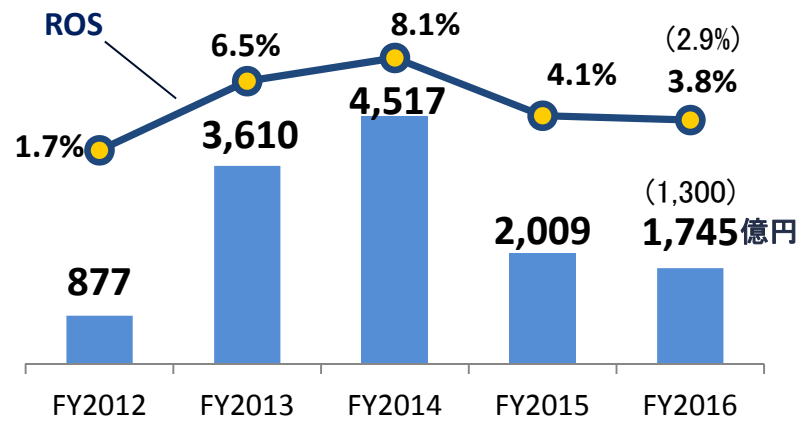
数量



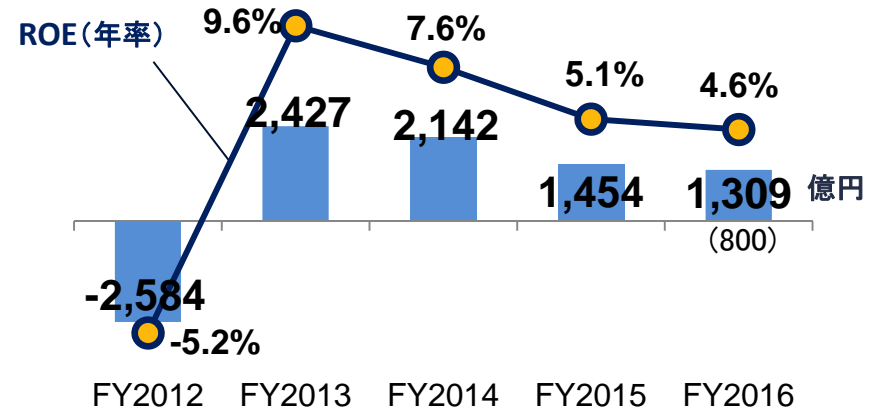
売上高



経常利益



当期利益*



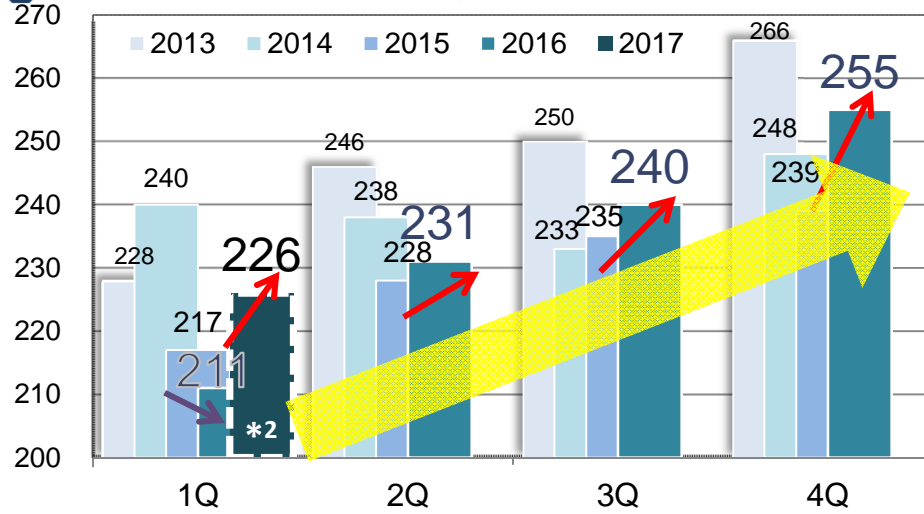
※ ()は前回(2/2)公表値

* 親会社株主に帰属する当期純利益

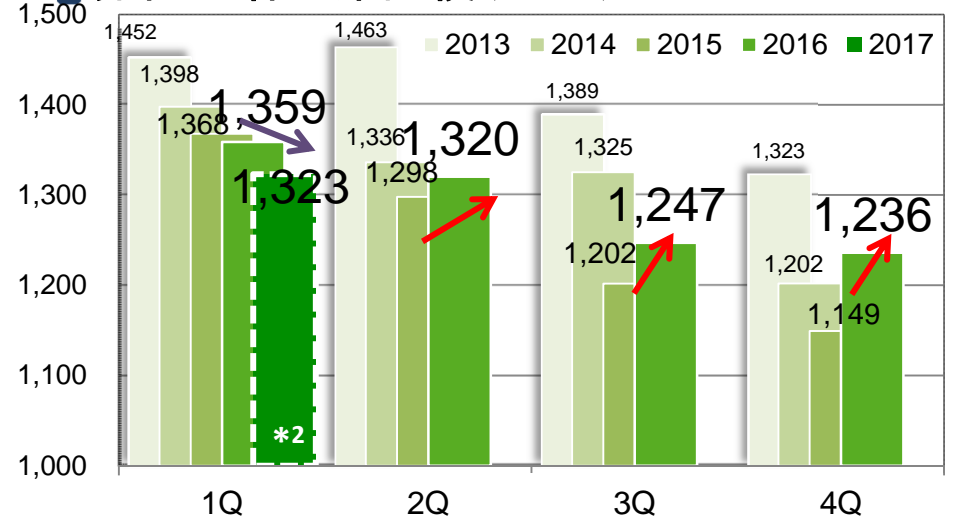


国内主要分野活動水準

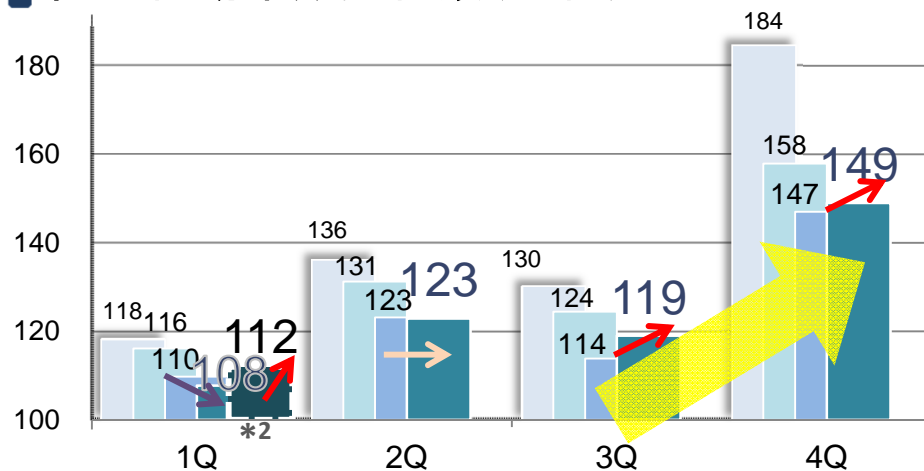
国内完成車生産台数(万台)



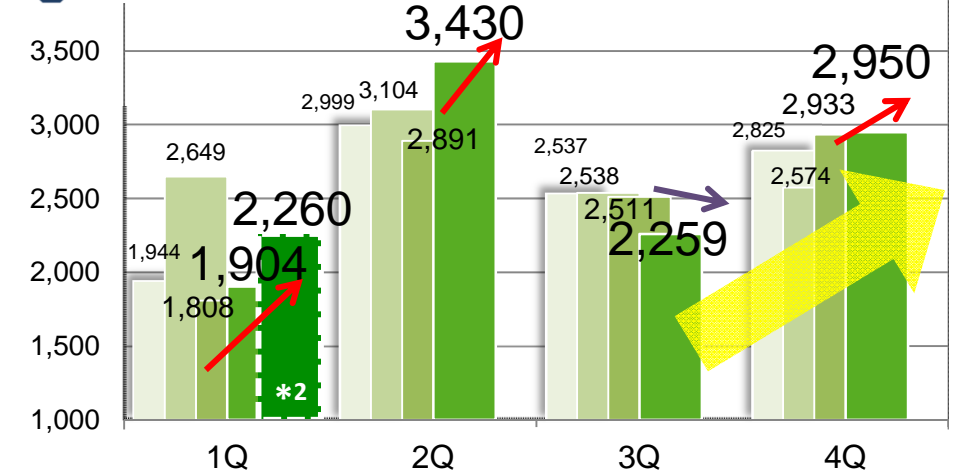
非住宅着工床面積(万㎡)



国内自動車販売台数(万台)



公共工事受注(10億円)^{*1}

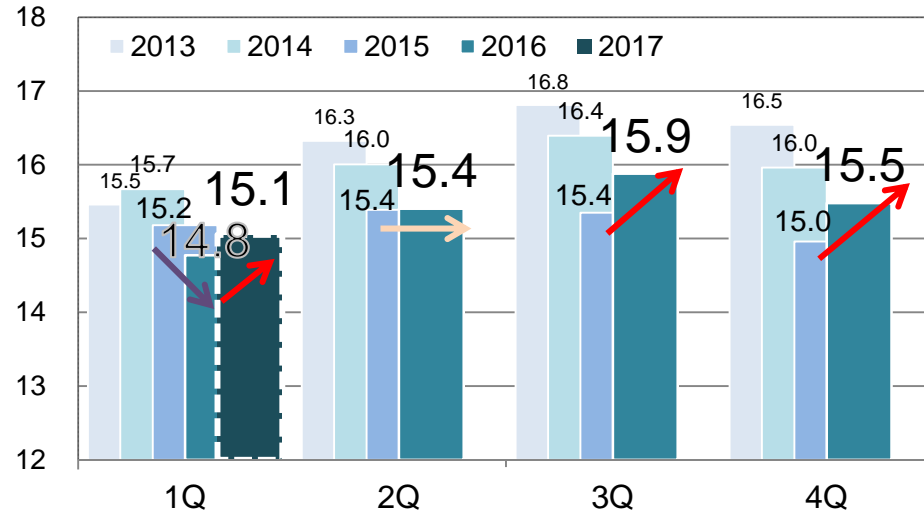


*1 建設工事受注動態統計の公共工事受注額

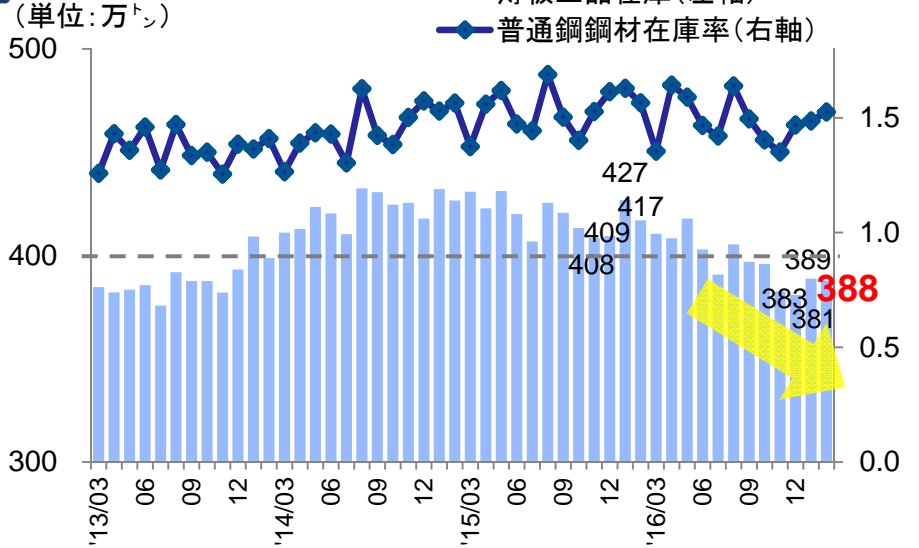
*2 3月上旬見込み値

国内鋼材需給

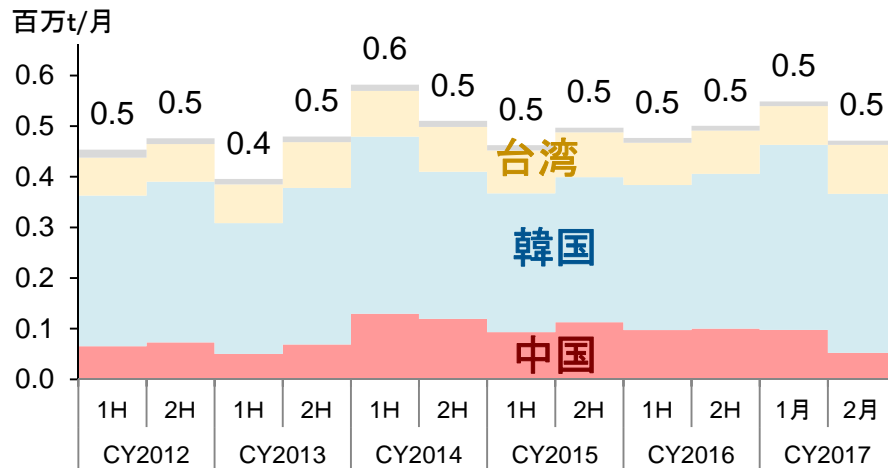
国内鋼材消費(百万t)



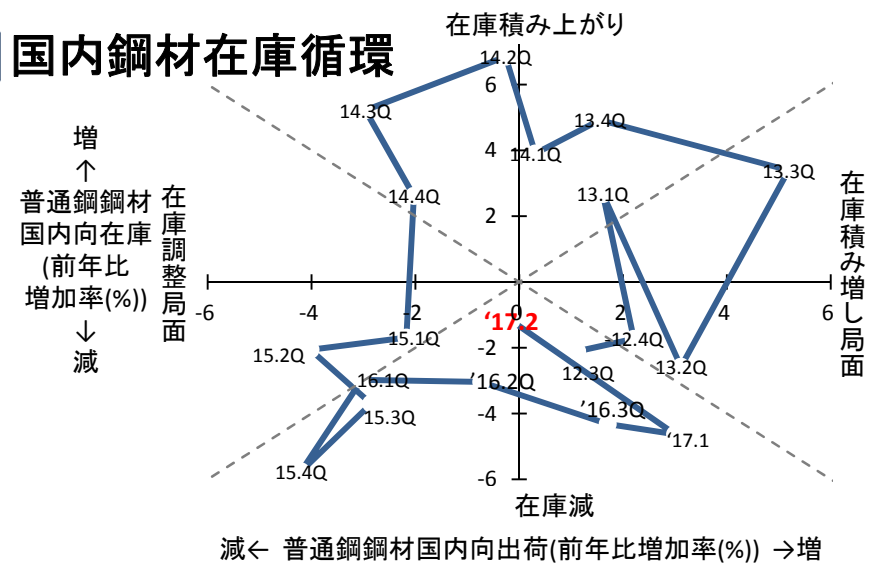
薄板三品在庫



日本への輸入材

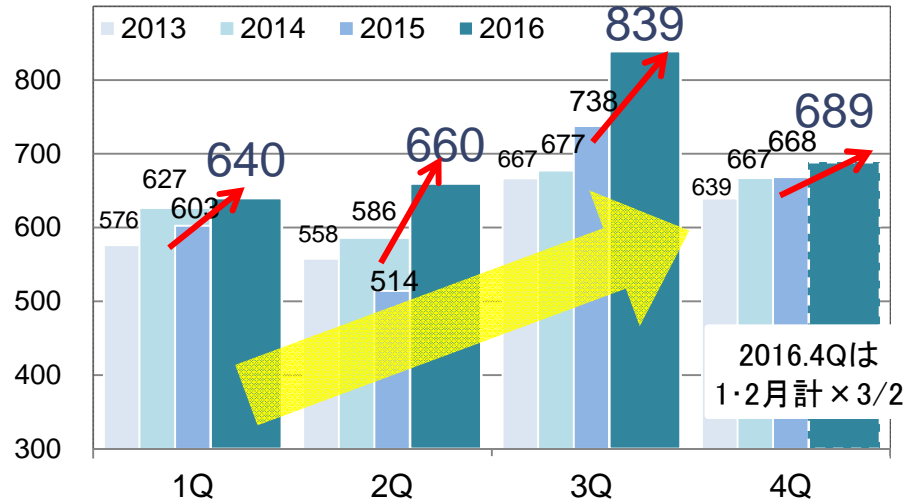


国内鋼材在庫循環

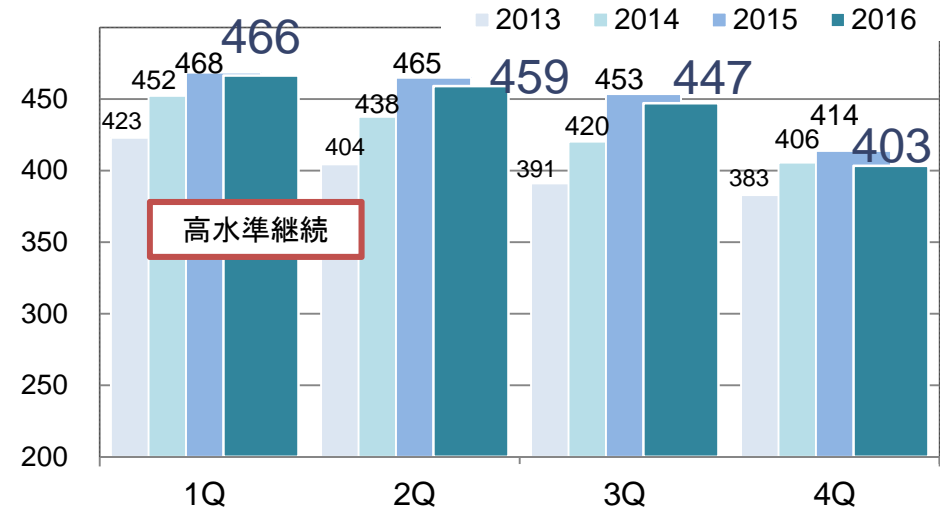


海外主要分野活動水準

中国完成車生産台数(万台)

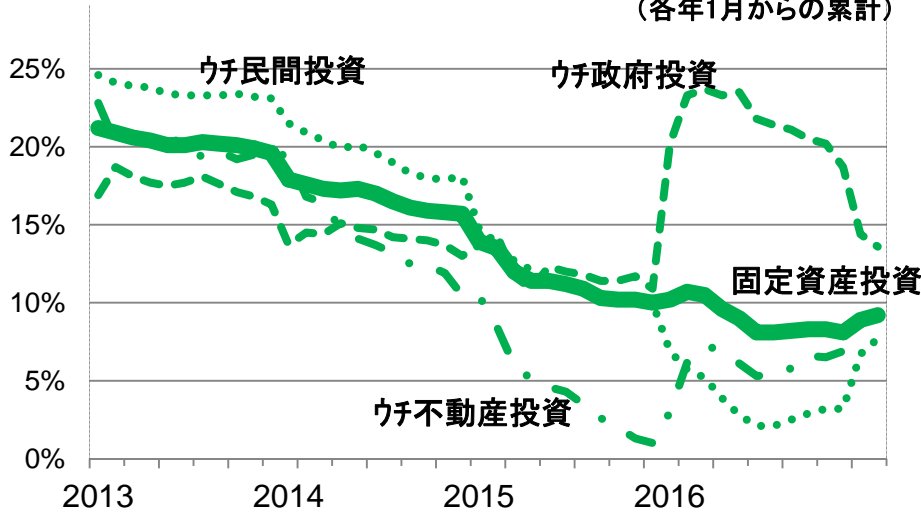


米国自動車販売台数(万台)

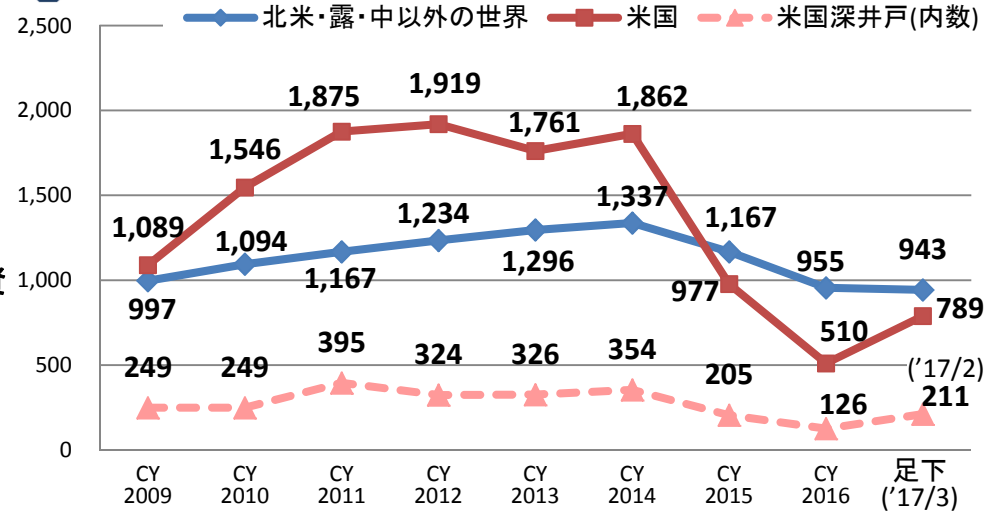


中国固定資産投資対前年伸び率

(各年1月からの累計)



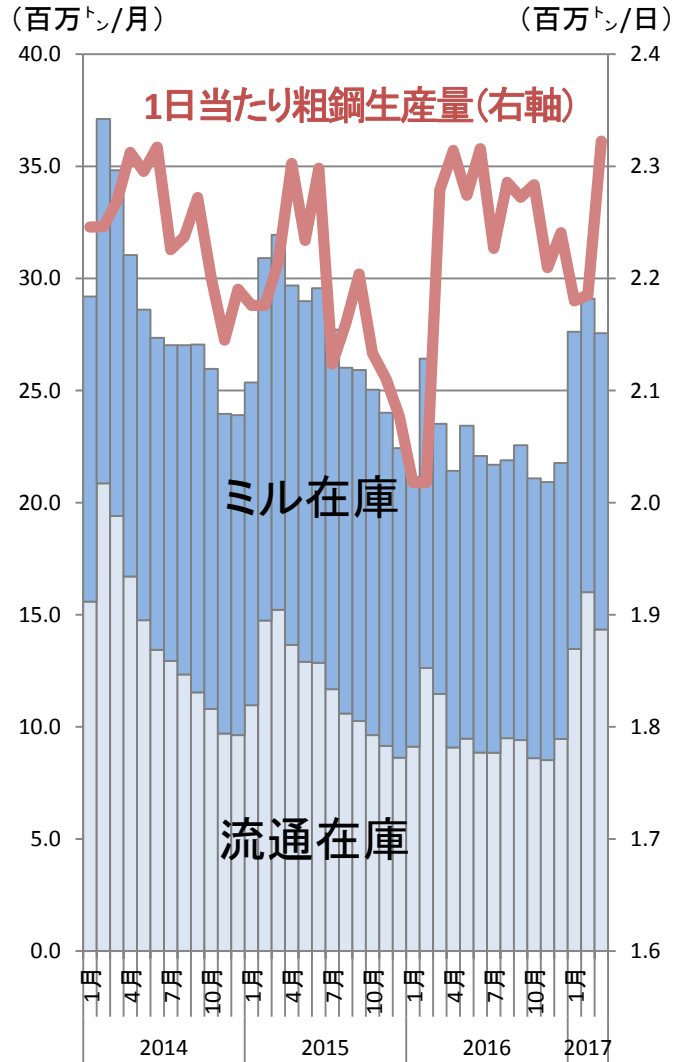
リグカウント(基)



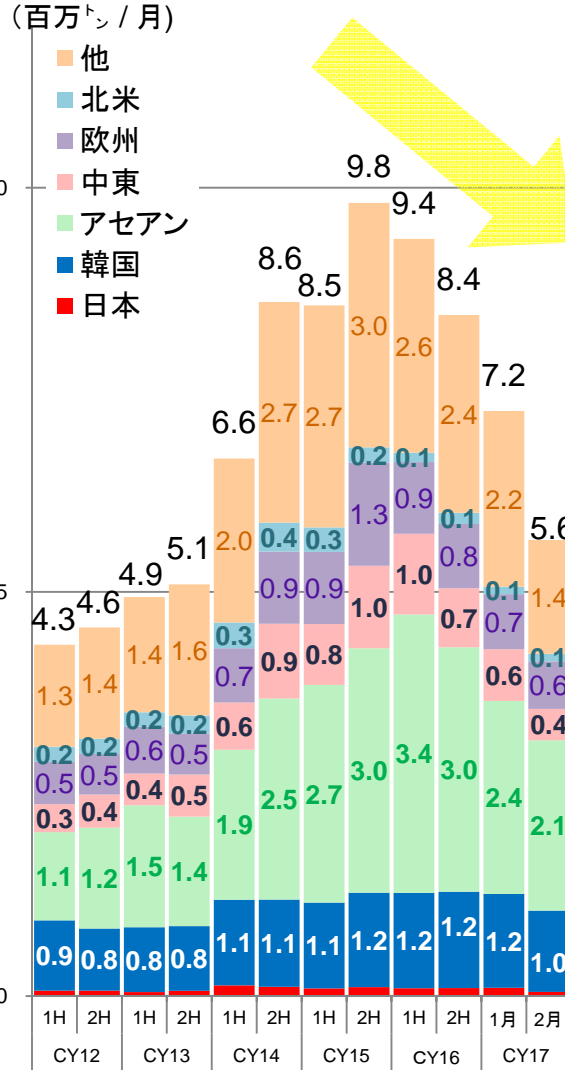
(出所: 中国 国家統計局)

中国鋼材需給、国際市況

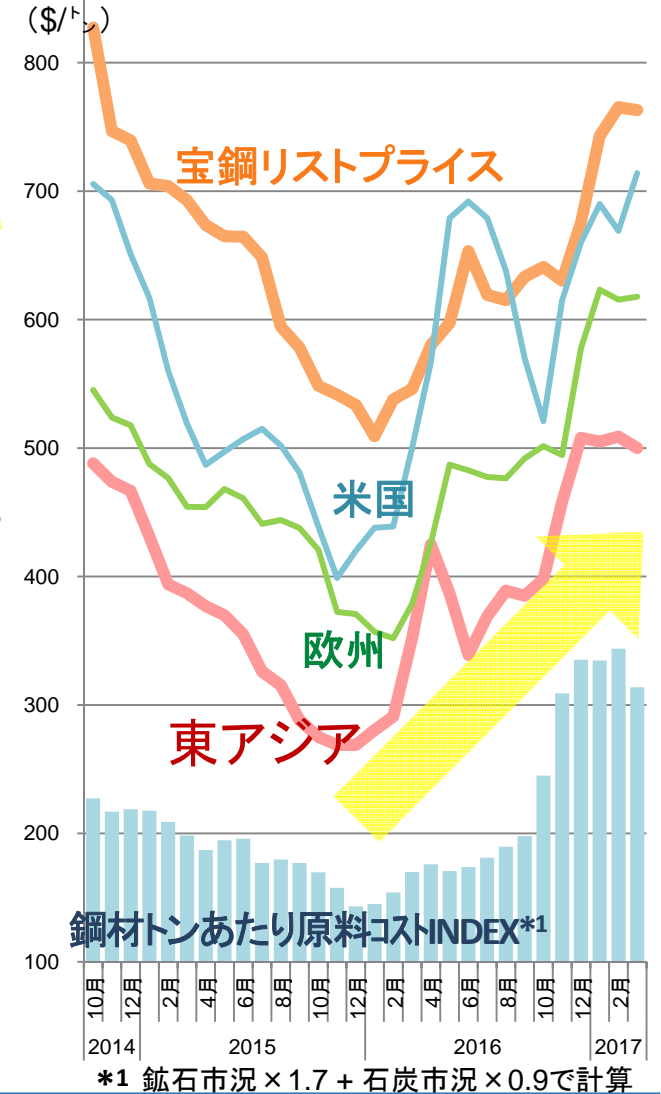
中国粗鋼生産と鋼材在庫



中国鋼材輸出向け先

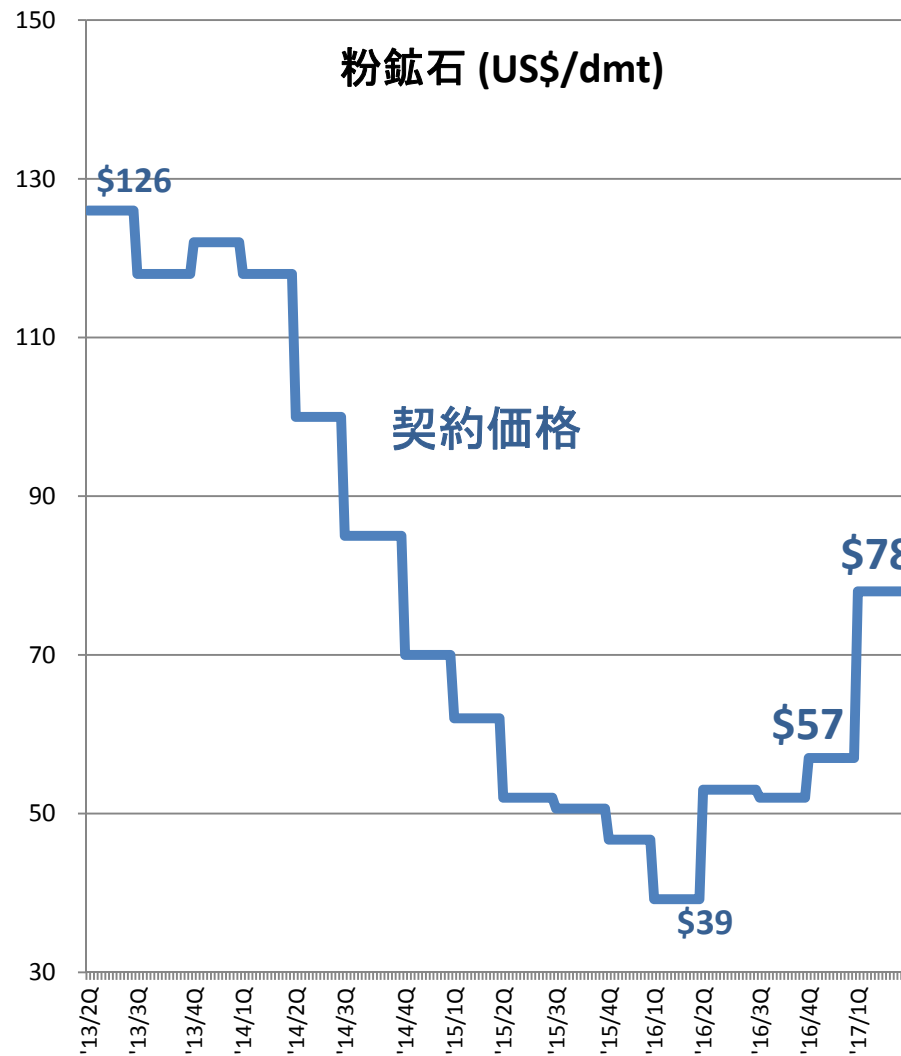
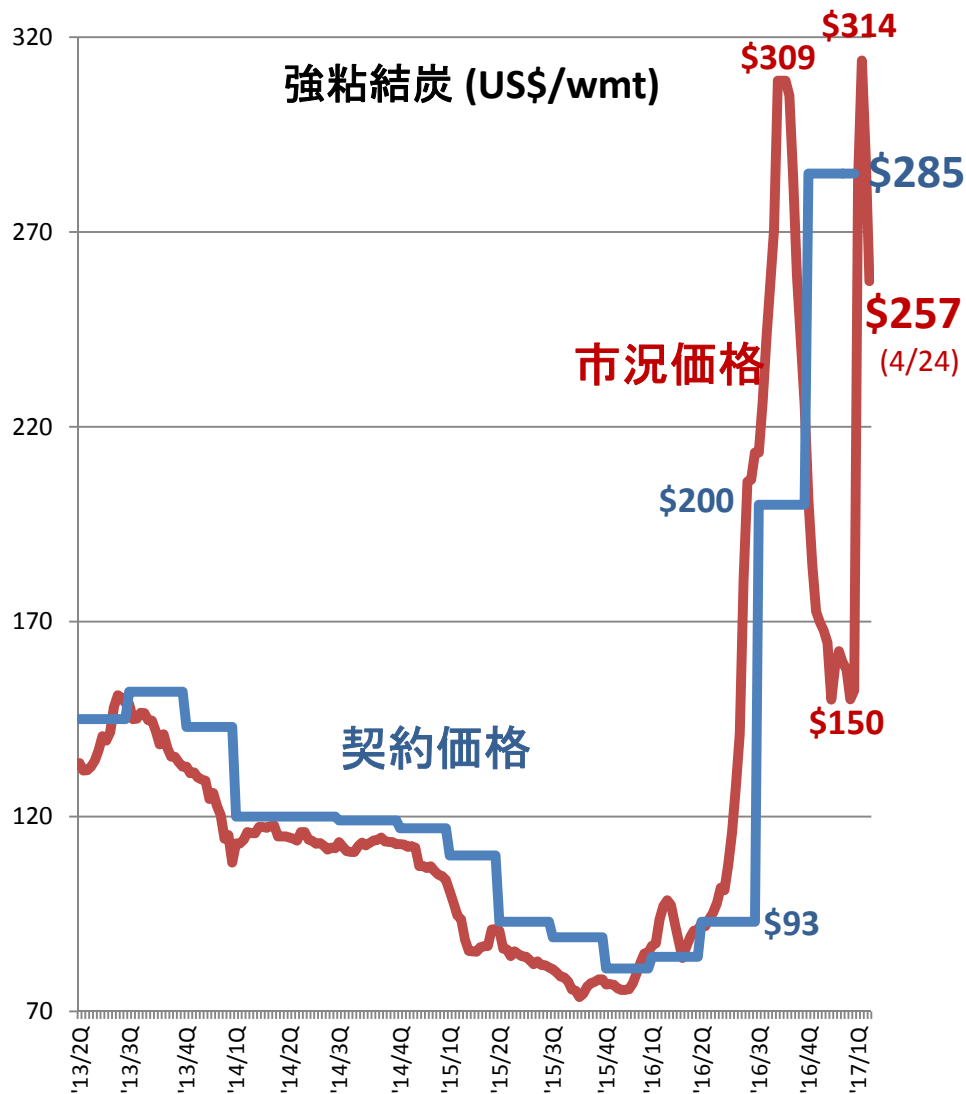


各国熱延市況



(出所: CISA、MYSTEEL)

主原料・市況 価格推移



(出所: Bloomberg)

当社製鉄事業 主要指標

(単位:万ト)	FY15 年度	FY16							差異				
		1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	*2 (前回 見直し)	年度	16/3Q → 16/4Q	16/上 → 16/下	15年 → 16年	16年見*2 → 16年
出銑量 *1	4,251	1,049	1,076	2,126	1,066	1,024	2,089	(4,230)	4,215	-42	-37	-36	-15
粗鋼生産量(連結)	4,453	1,116	1,153	2,270	1,152	1,095	2,247	(4,530)	4,517	-57	-22	+65	-13
粗鋼生産量(単独)	4,217	1,058	1,093	2,151	1,084	1,028	2,111	(4,280)	4,262	-56	-40	+45	-18
鋼材出荷量	3,962	960	1,009	1,968	1,029	981	2,009	(3,960)	3,978	-48	+41	+16	+18
シームレス出荷量	83	24	23	47	23	23	46	(94)	93	+0	-1	+10	-1
鋼材平均価格 (千円/ト)	77.1	68.1	67.9	68.0	70.9	83.6	77.1	(73)	72.6	+12.7	+9.0	-4.5	-0.4
鋼材輸出比率(% [金額ベース])	45	43	43	43	42	41	42	(42)	42	-1	-1	-3	+0
為替レート(¥・\$)	121	111	103	107	106	114	110	(109)	109	8円安	3円安	12円高	0円

*1 北海製鉄・日鉄住金鋼鉄和歌山含み

*2 前回(2017年2月2日)公表値

2016年度決算

(単位:億円)	FY15 年度	FY16						差異			
		上期	3Q	4Q	下期	*3 (前回 見通し)	年度	16/3Q → 16/4Q	16/上 → 16/下	15年 → 16年	16年見*3 → 16年
売上高	49,074	21,607	11,712	13,008	24,720	(45,500)	46,328	+1,296	+3,113	-2,746	+828
営業損益	1,677	178	443	520	963	/	1,142	+77	+785	-535	/
経常損益	2,009	280	805	660	1,465	(1,300)	1,745	-145	+1,185	-264	+445
特別損益	298	-91	-74	237	162	/	71	+311	+253	-227	/
当期損益*1	1,454	110	483	715	1,199	(800)	1,309	+232	+1,089	-145	+509
[1株当たり 当期損益]*2	[158.7]	[12.4]	[54.8]	[81.1]	[135.9]	[90.0]	[148.0]	[+26.2]	[+123.5]	[-10.7]	[+58.0]
EBITDA	4,759	1,630	1,229	1,329	2,559	/	4,189	+100	+928	-570	/
EBITDA / Sales	9.7%	7.5%	10.5%	10.2%	10.4%	/	9.0%	-0.3%	2.8%	-0.7%	/
ROS	4.1%	1.3%	6.9%	5.1%	5.9%	(2.9%)	3.8%	-1.8%	+4.6%	-0.3%	+0.9%
ROE	5.1%	0.8%	7.1%	10.0%	8.6%	/	4.6%	+2.8%	+7.8%	-0.5%	/

*1 親会社株主に帰属する当期純利益

*2 2015年10月1日を効力発生日として、10株を1株とする株式併合を実施したため、

*3 前回(2017年2月2日)公表値

2015年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定



新日鐵住金

NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL

特別損益

(単位:億円)	FY15	FY16				差異 15年 → 16年	
		上期	3Q	4Q	下期		
特別損益	298	-91	-74	237	162	71	-227
関係会社株式売却益	326	—	—	241	241	241	-85
受取和解金	300	—	—	—	—	—	-300
段階取得に係る差益	—	—	—	100	100	100	+100
減損損失	-137	—	—	—	—	—	+137
設備休止関連損失	-190	-27	-74	-26	-100	-127	+63
災害損失	—	—	—	-78	-78	-78	-78
事業再編損	—	-64	—	—	—	-64	-64

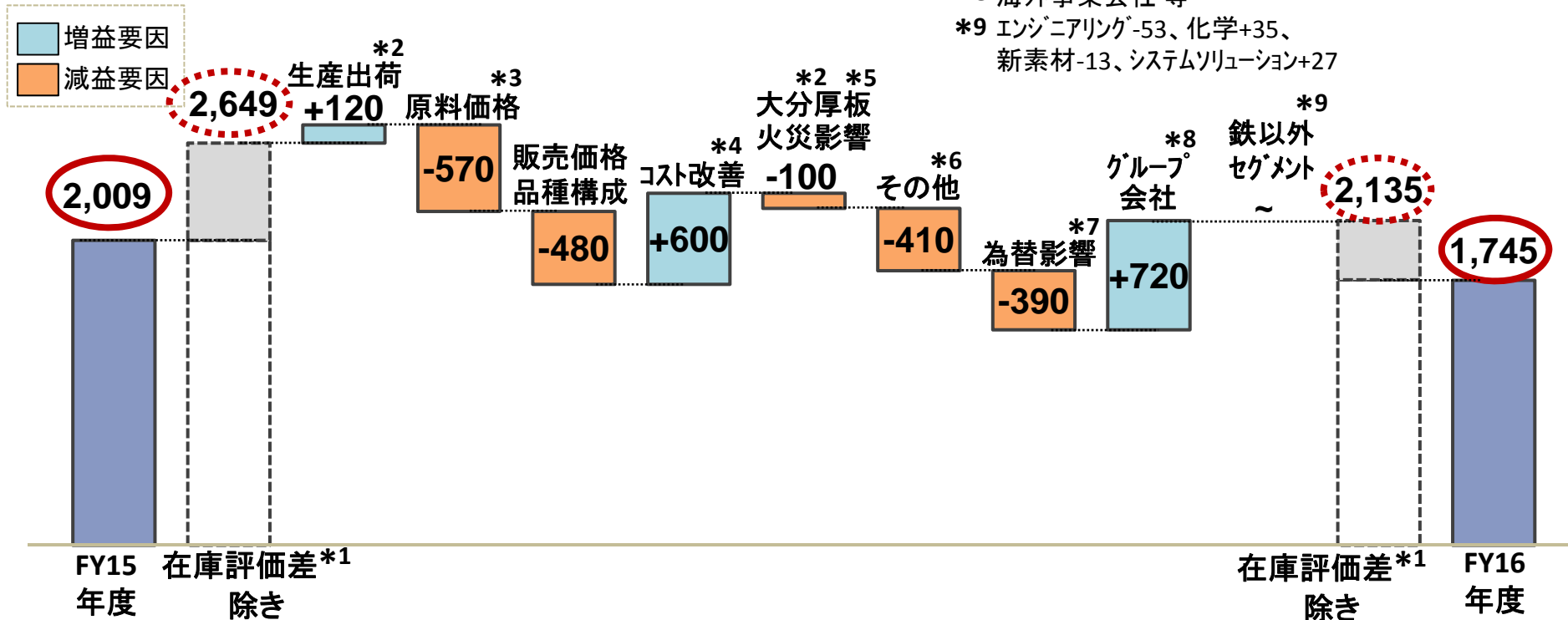
大分製鉄所厚板工場火災影響

単位:億円	FY2016 4Q	FY2017 見	累計	
経常損益	-100	-100	-200	生産出荷影響、非定常コスト増等
特別損益	-78		-78	復旧費用
税前提損益	-178	-100	-278	

経常損益分析 (FY15年度→FY16年度)

(単位:億円)	FY15年度 [A]	FY16年度 [B]	増減 [A→B]
経常利益	2,009	1,745	-264
製鉄	1,600	1,380	-220
鉄以外セグメント	358	352	-6
調整額	50	12	-38

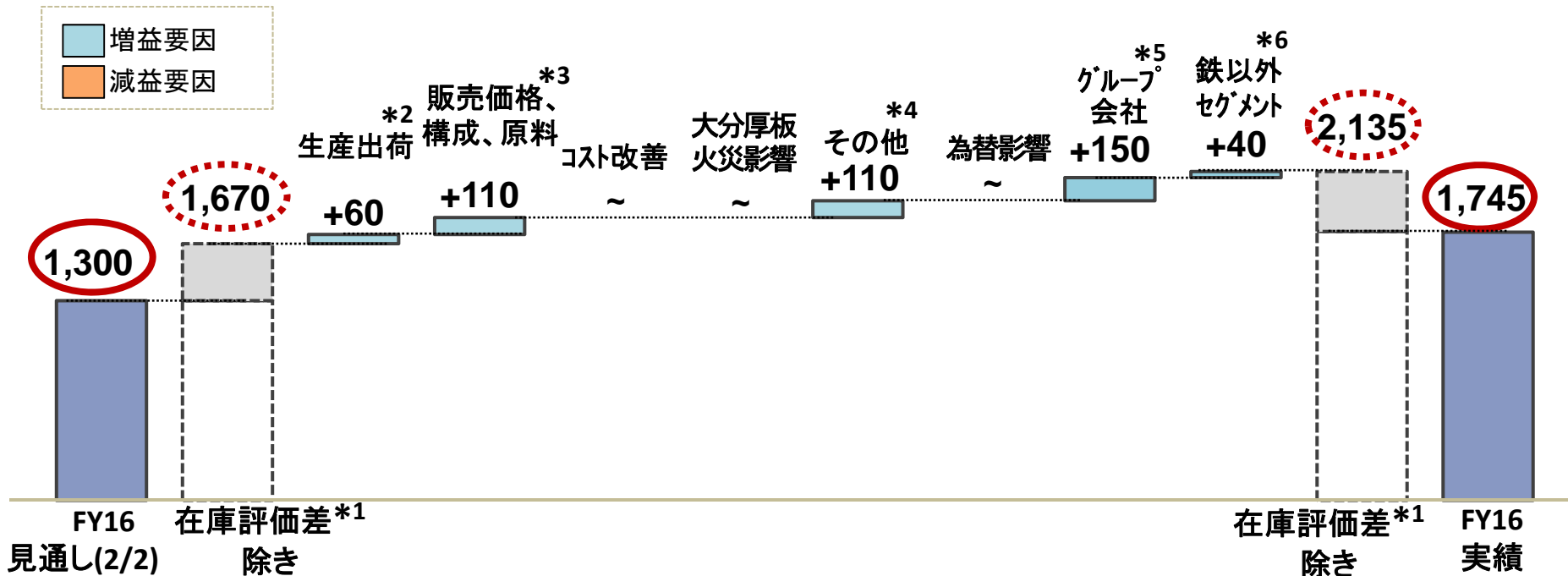
- *1 在庫評価差 +250 (-640 → -390)
- *2 粗鋼+45万トﾝ (4,217→4,262)
出荷+16万トﾝ (3,962→3,978)
※上記、生産出荷量は大分厚板火災影響含み。
但し、影響額は大分厚板火災影響に切り出し。
- *3 キャリーオーバー影響含む
- *4 統合効果含む
- *5 数量影響 及び コスト影響
- *6 退職給付、熊本地震影響、連結消去 等
- *7 ストック:-170 (+70→ -90) 為替:-220
- *8 海外事業会社 等
- *9 エンジニアリング-53、化学+35、
新素材-13、システムソリューション+27



経常損益分析 (FY16見通し(2/2)→FY16実績)

(単位:億円)	FY16年度 見通し (2/2) [A]	FY16年度 実績 [B]	増減 [A→B]
経常利益	1,300	1,745	+445
製鉄	1,000	1,380	+380
鉄以外セグメント	315	352	+37
調整額	-15	12	+27

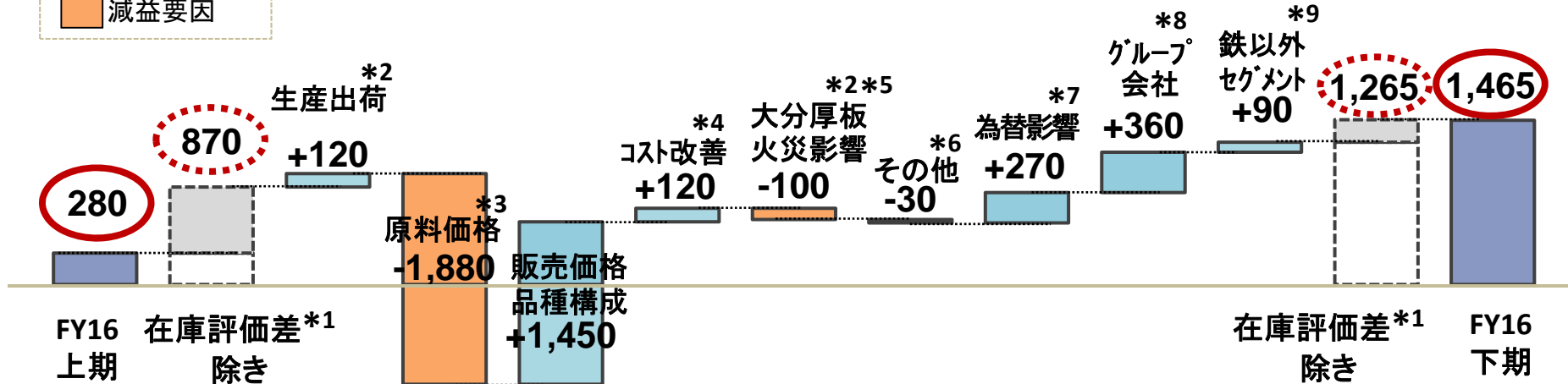
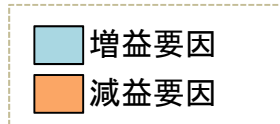
- *1 在庫評価差 -20 (-370 → -390)
- *2 粗鋼-18万トン (4,280程度→4,262)
出荷+18万トン (3,960程度→3,978)
- *3 キャリーオーバー影響含む
- *4 償却費等
- *5 在庫評価差等
- *6 エンジニアリング+18、化学+5、
新素材+2、システムソリューション+11



経常損益分析 (FY16/上期→FY16/下期)

(単位:億円)	FY16/上期 [A]	FY16/下期 [B]	増減 [A→B]
経常利益	280	1,465	+1,185
製鉄	140	1,239	+1,099
鉄以外セグメント	134	217	+83
調整額	4	7	+3

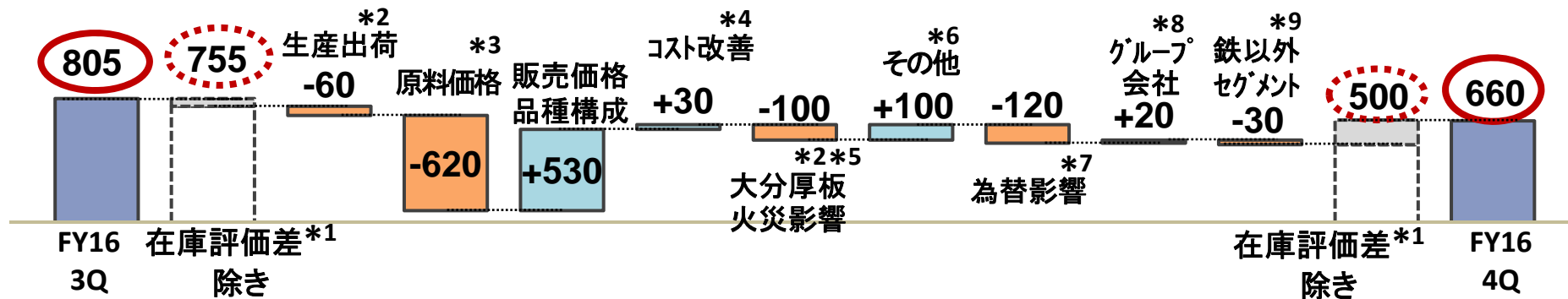
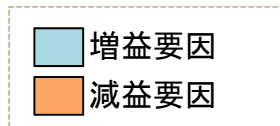
- *1 在庫評価差 +790 (-590 → 200)
- *2 粗鋼-40万トン (2,151→2,111)
出荷+41万トン (1,968→2,009)
※上記、生産出荷量は大分厚板火災影響含み。
但し、影響額は大分厚板火災影響に切り出し。
- *3 キャリーオーバー影響含む
- *4 統合効果含む
- *5 数量影響 及びコスト影響
- *6 償却費等
- *7 スtock:+310 (-200→ +110) 70-: -40
- *8 在庫評価差、季節要因等
- *9 エンジニアリング+37、化学+29、
新素材+3、システムソリューション+14



経常損益分析 (FY16/3Q→FY16/4Q)

(単位:億円)	FY16/3Q [A]	FY16/4Q [B]	増減 [A→B]
経常利益	805	660	-145
製鉄	678	561	-117
鉄以外セグメント	123	94	-29
調整額	3	4	+1

- *1 在庫評価差 +110 (50 → 160)
- *2 粗鋼-56万トン (1,084→1,028)
出荷-48万トン (1,029→981)
※上記、生産出荷量は大分厚板火災影響含み
- *3 キャリーオーバー影響含む
- *4 統合効果含む
- *5 数量影響 及びコスト影響
- *6 固定費期ズレ等
- *7 ストック:-80 (+90→+10) 為替:-40
- *8 季節差等
- *9 エンジニアリング-9、化学-27、
新素材-2、システムソリューション+8



製鉄以外セグメント概況

売上高・経常利益推移

(単位:億円)


(4セグメント合計)




2016年度 経常損益動向 (前年対比)

エンジニアリング事業	↓ 減益	: 原油価格低迷や海外鉄鋼メーカーの投資手控え等の影響により減収減益。
化学事業	↑ 増益	: 円高等により減収も、機能材料(エスパネックス、液晶用材料)販売増や化学品市況改善、在庫評価損減少等により増益。
新素材事業	↓ 減益	: 表面処理銅ワイヤの販売量は順調に増加したものの、円高進行、競争激化等の影響を受け、減収減益。
システムソリューション事業	↑ 増益	: 業務ソリューション、サービスソリューション共に増収。経常利益は、販管費増があるも、増収により増益。

(単位:億円)

エンジニアリング事業		2014年度	2015年度	2016年度
	売上高	3,486	3,157	2,675
	経常利益	187	121	68

新素材事業		2014年度	2015年度	2016年度
	売上高	364	362	345
	経常利益	24	30	17

化学事業		2014年度	2015年度	2016年度
	売上高	2,127	1,818	1,742
	経常利益	68	10	45

システムソリューション事業		2014年度	2015年度	2016年度
	売上高	2,060	2,189	2,325
	経常利益	165	194	221

貸借対照表

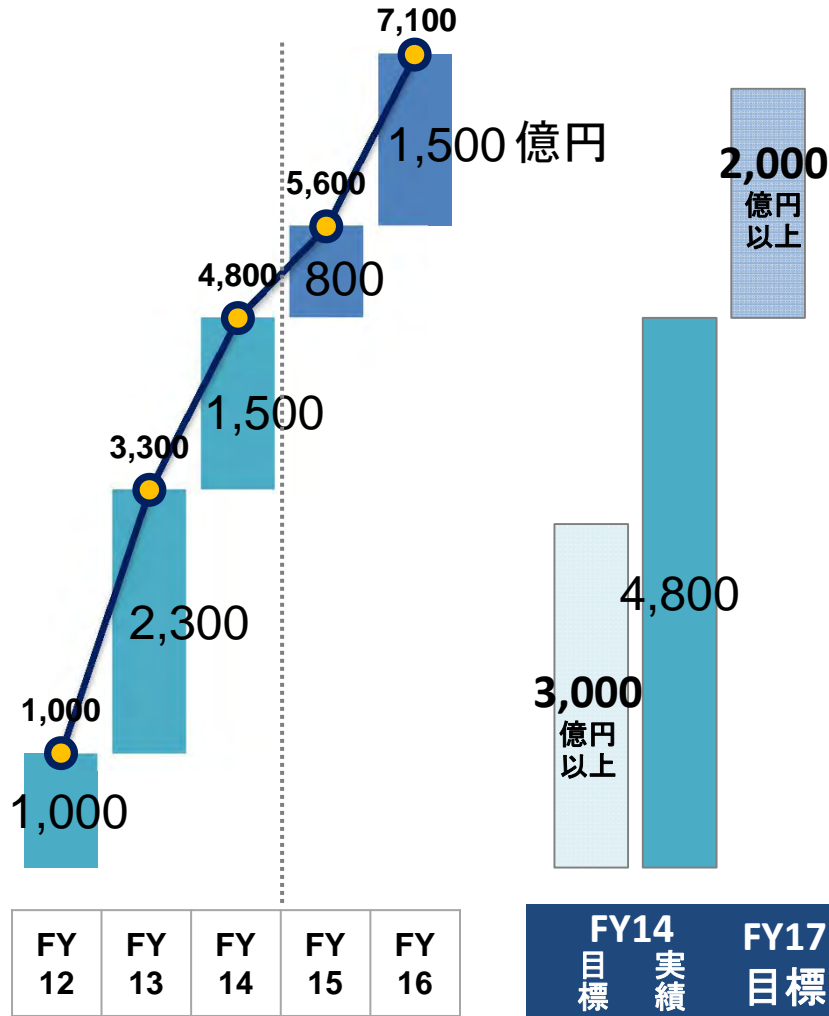
(億円)	2016年 3月末	2017年 3月末	(億円)	2016年 3月末	2017年 3月末
流動資産合計	19,900	22,444	負債合計	34,159	39,709
たな卸資産	11,109	12,156	有利子負債	20,082	21,048
固定資産合計	44,349	50,174	純資産合計	30,090	32,910
有形固定資産	25,792	28,408	自己資本	27,738	29,482
投資有価証券	5,924	8,163	評価差額金*	1,713	2,692
関係会社株式	9,798	10,413	非支配株主持分	2,352	3,427
資産合計	64,250	72,619	負債純資産合計	64,250	72,619

	2016年3月末	2017年3月末	増減 (うち、日新)
総資産 (億円)	64,250	72,619	+8,368 (+5,899)
有利子負債 (〃)	20,082	21,048	+965 (+2,456)
自己資本 (〃)	27,738	29,482	+1,744 (+93)
D/Eレシオ (倍)	0.72	0.71	-0.01 (+0.09)

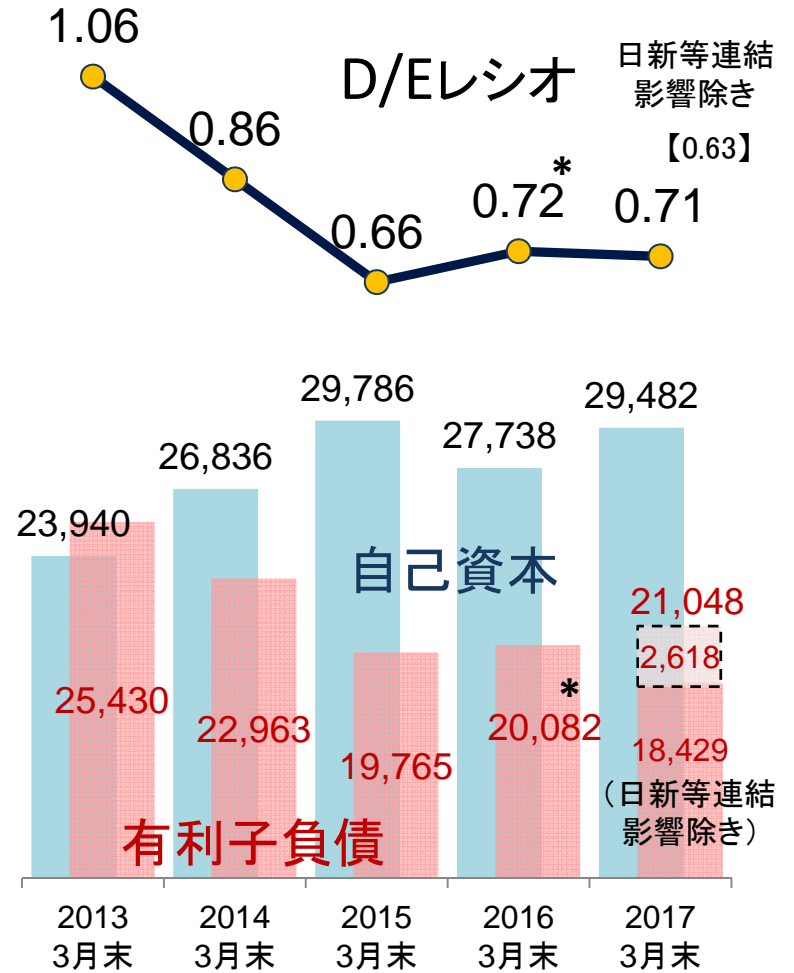
* その他有価証券評価差額金

財務体質

資産圧縮



D/Eレシオ

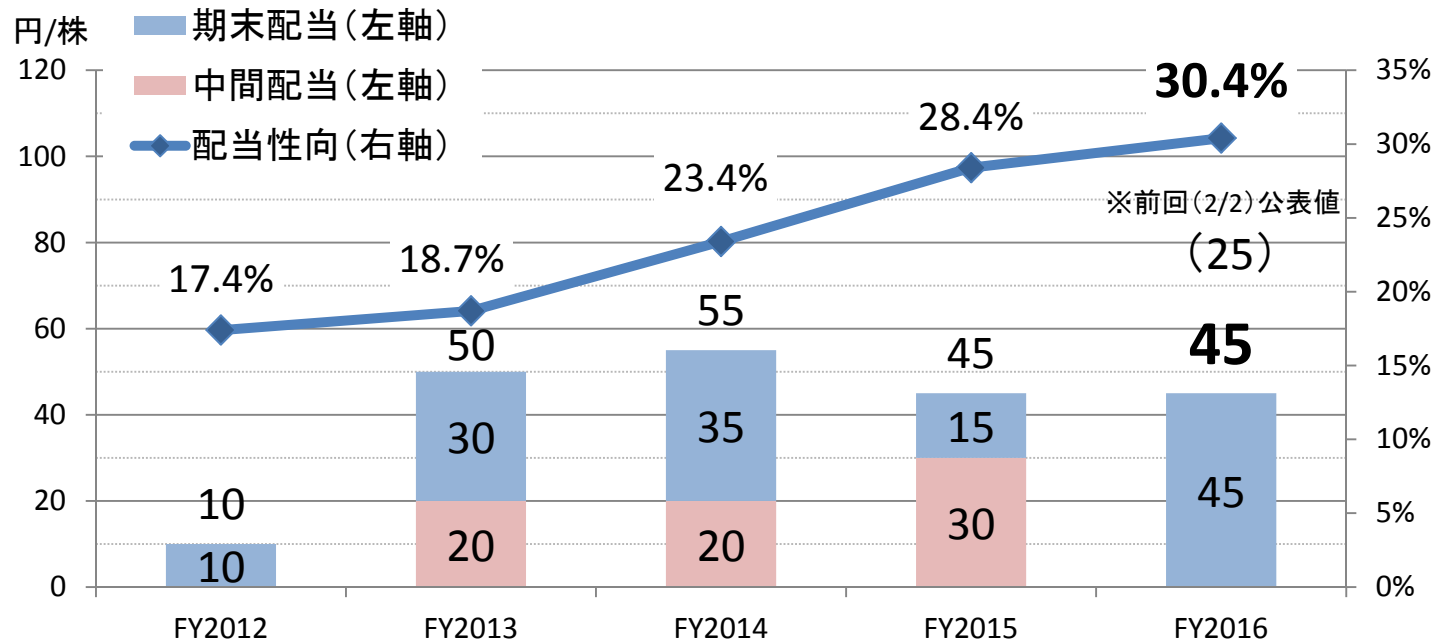


* 2015年7月に実施したハイブリッド証券から劣後ローンへのリファイナンス影響を含む。
(有利子負債3,000億円増、D/Eレシオ0.1程度増。格付け評価上影響は無い)

当期末の剰余金の配当

当期末の剰余金の配当につきましては、前回見通し公表時点からの業績の好転を踏まえて、既公表の配当方針に従い、1株につき45円として定時株主総会に提案させていただきます。 (年間配当: 1株につき45円、連結配当性向30.4%)

<配当推移>



<剰余金の配当等の決定に関する方針>

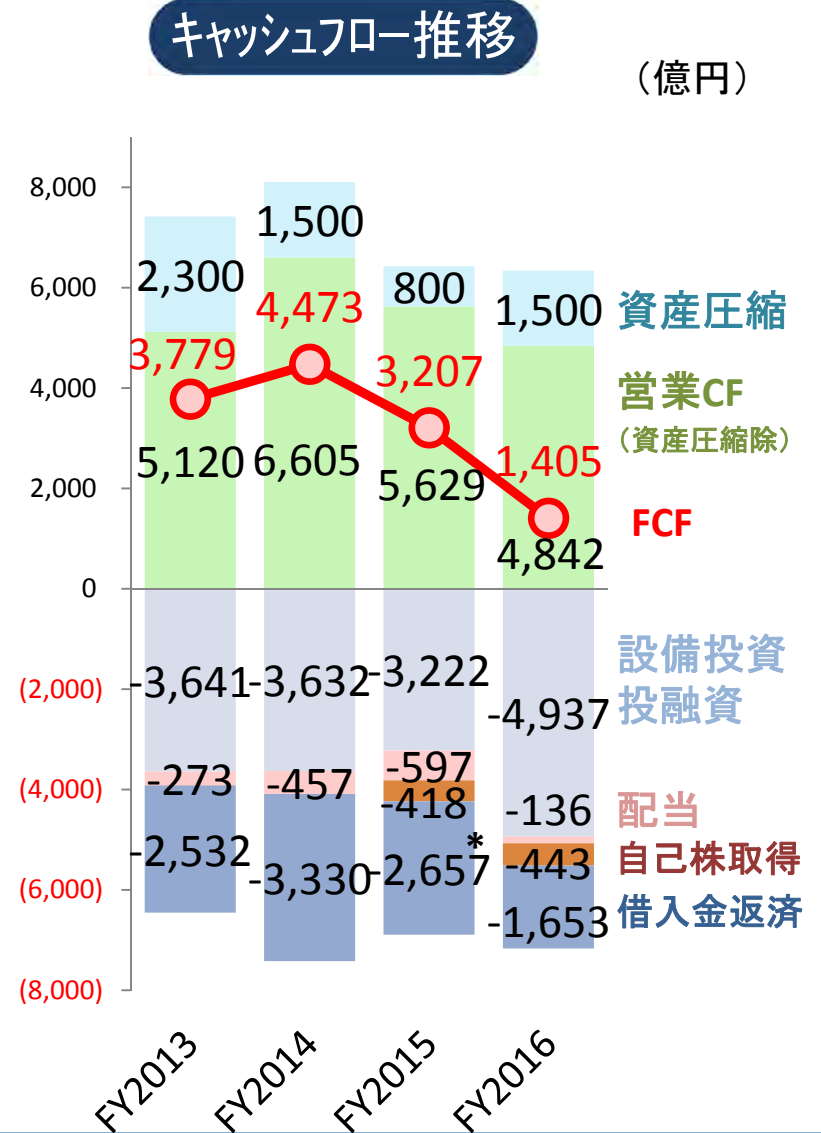
当社は、業績に応じた利益の配分を基本として、企業価値向上に向けた投資等に必要な資金所要、先行きの業績見通し、連結及び単独の財務体質等を勘案しつつ、第2四半期末及び期末の剰余金の配当を実施する方針と致しております。

「業績に応じた利益の配分」の指標としては、連結配当性向年間20～30%を目安と致します。

※ 2015年10月1日を効力発生日として、10株を1株とする株式併合を実施したため、2012年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり配当額を算定

キャッシュフロー(CF)

(億円)		FY2015	FY2016
Cash-in	営業CF(資産圧縮除)	5,629	4,842
	経常利益	2,009	1,745
	減価償却費	3,082	3,047
	持分法利益控除	-441	-791
	支払税	-581	-417
	運転バランス等	1,560	1,258
	資産圧縮	800	1,500
Cash-out	設備投資・投融資	-3,222	-4,937
	フリーキャッシュ・フロー	3,207	1,405
	支払配当	-597	-136
	自己株取得	-418	-443
	借入金等返済	-2,657*	-1,653
	その他	188	894
	現金同等物増減	-277	+67

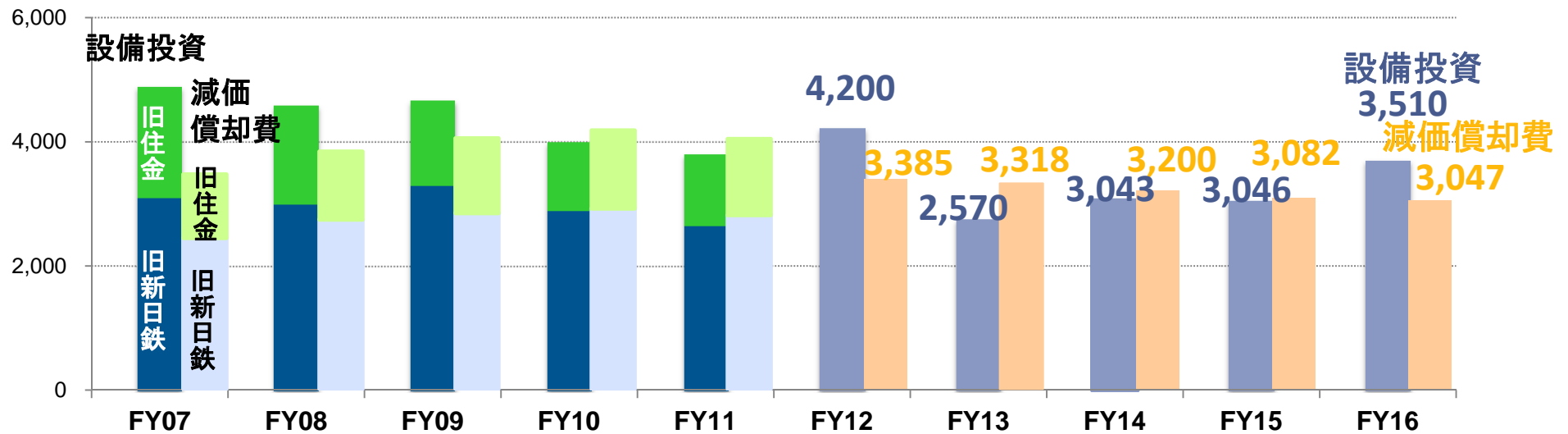


*「2015借入金返済-2,657億円」 + 「ハイブリッド証券リファイナンス(非支配持分→有利子負債)3,000億円」
 - 「連結範囲変更・為替換算影響27億円」 = 「有利子負債増減+316億円」

設備投資・減価償却費

(単位:億円)

新日鐵住金 (上段:新日鉄 下段:住金)	FY07	FY08	FY09	FY10	FY11	FY12	FY13	FY14	FY15	FY16
設備投資 <工事ベース>	4,900 (3,100) (1,788)	4,600 (3,000) (1,591)	4,650 (3,300) (1,366)	4,000 (2,900) (1,099)	3,800 (2,650) (1,157)	4,200	2,570	3,043	3,046	3,510
減価償却費	3,465 (2,440) (1,025)	3,835 (2,737) (1,098)	4,048 (2,840) (1,208)	4,177 (2,915) (1,262)	4,038 (2,809) (1,229)	3,385	3,318	3,200	3,082	3,047



※ 設備投資：FY07～12の新日鐵住金は、新日鉄と住金の合算値を50億円単位で四捨五入

2. 2017年度經營環境

2017年度に向けて：2016年度損益状況

2016年度連結経常利益 1,745億円

	年度	【うち下期】
在庫評価損	▲390	【 200】
為替差損	▲ 90	【 110】
グループ会社一過性	150	【 180】
大分火災影響	▲100	【▲100】
上記除き損益	2,200	【1,070】

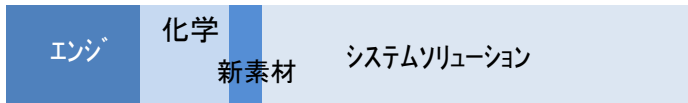
単独営業損益 ▲291億円

在庫評価損	▲390億円
大分火災影響	▲100億円
上記除き損益	200億円

鉄グループ会社 1,800億円



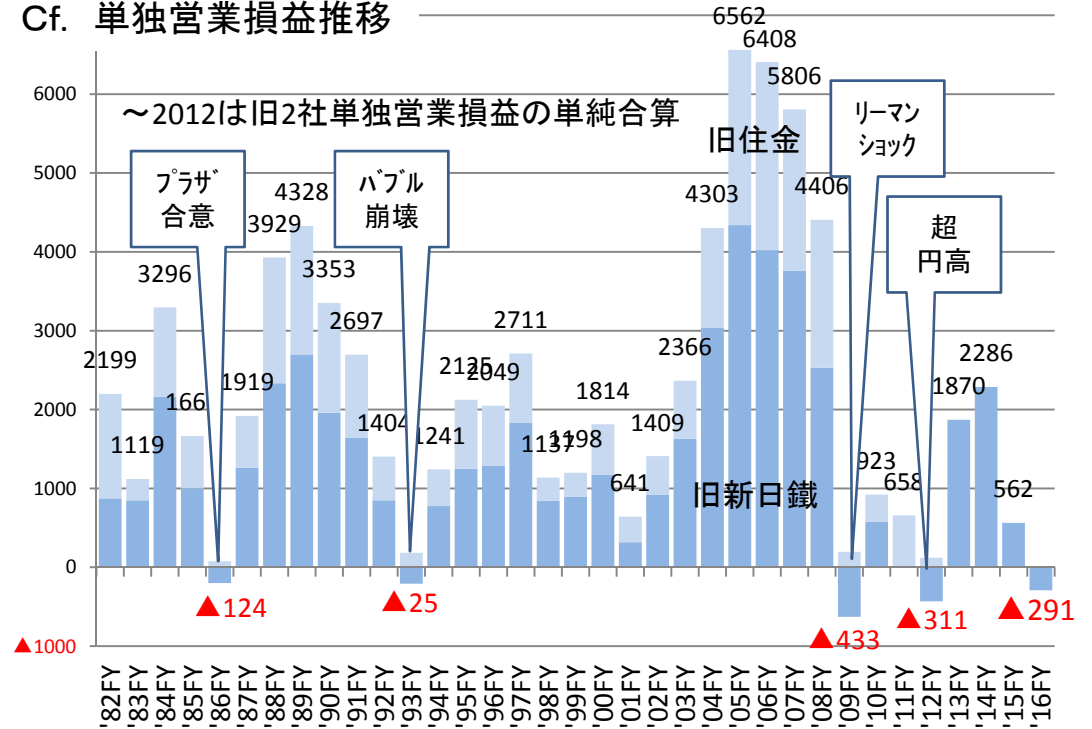
非鉄事業 350億円



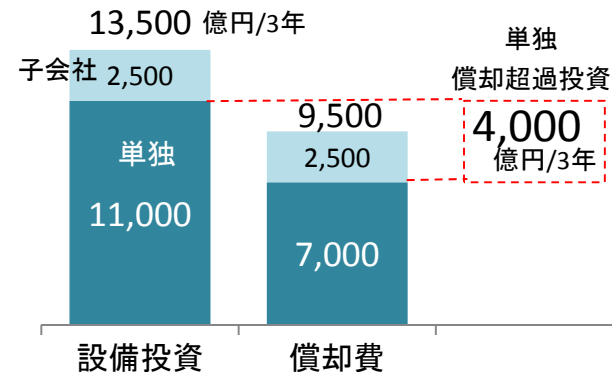
鉄単独営業外・連結消去等 ▲110億円

* 原料権益含む

Cf. 単独営業損益推移



Cf. 2015-17設備投資計画



2017年度 業績影響項目

■ コスト改善



中期計画残分 500億円/年

(対2016年度)



増益要因



減益要因

■ グループ会社



日新製鋼子会社化



海外事業会社

■ 原料価格 販売価格・構成



2016年度下期の原料高騰対応値上げの浸透



2016年度下期の原料キャリーオーバーの解消



「再生産可能な適正価格・マージン」の実現に向けた価格改善



物流費等コストアップ

■ 為替



フロー: 原料価格・鋼材輸出価格動向により外貨バランス変動
ストック: 外貨建資産残高 約10億\$

■ 在庫評価差



原料価格動向・為替動向により不透明



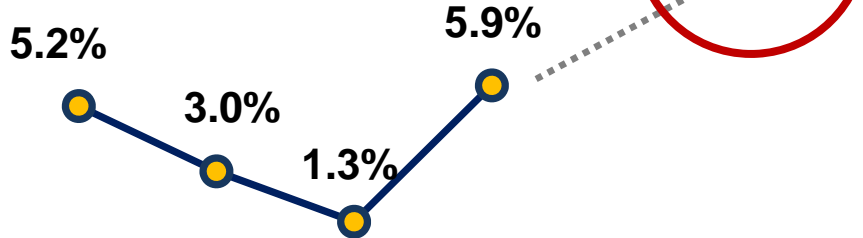
新日鐵住金

NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL

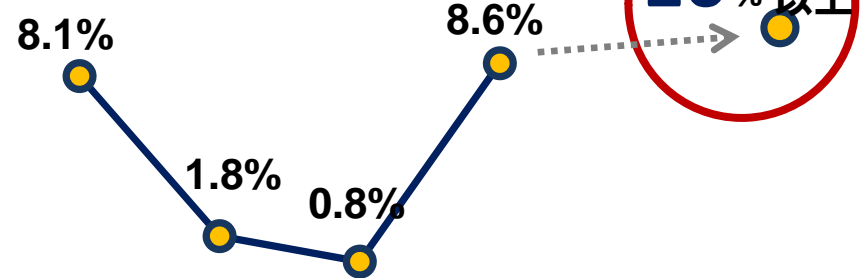
3. 中期経営計画の進捗状況

中期経営計画 進捗状況： 定量的指標

ROS



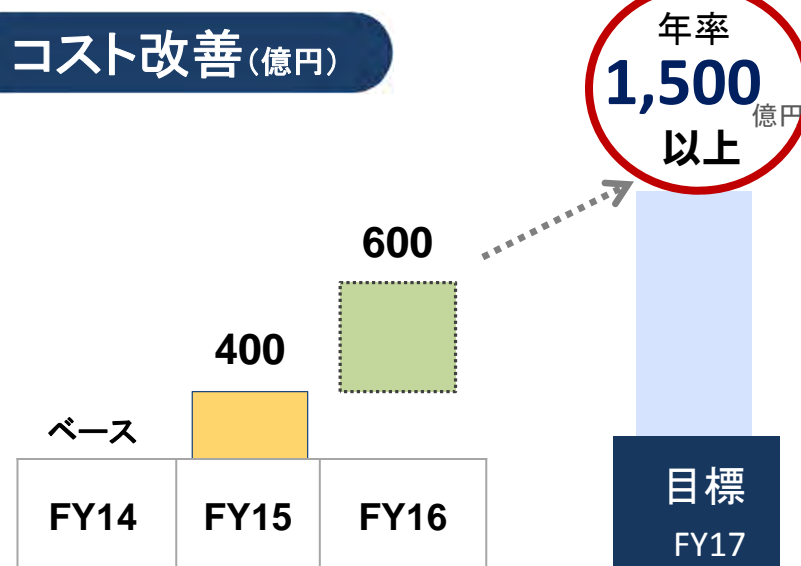
ROE



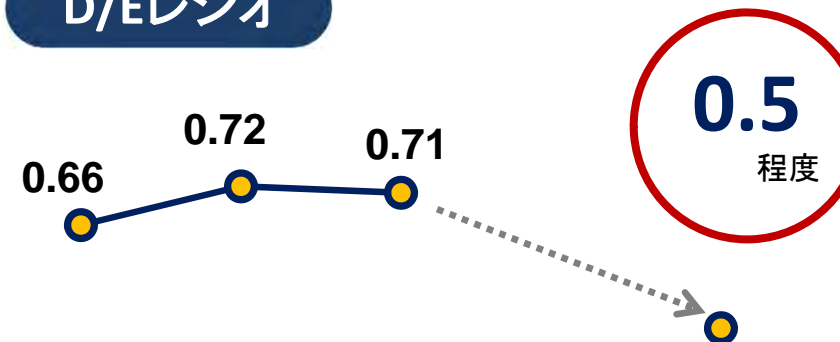
FY15 上期	FY15 下期	FY16 上期	FY16 下期	目標 FY17
---------	---------	---------	---------	---------

FY15 上期	FY15 下期	FY16 上期	FY16 下期	目標 FY17
---------	---------	---------	---------	---------

コスト改善 (億円)



D/Eレシオ



FY14	FY15	FY16	目標 FY17
------	------	------	---------

FY14	FY15	FY16	目標 FY17
------	------	------	---------

中期経営計画 進捗状況： 主要計画進捗

	社名／製造所	内容	FY15	FY16		FY17	FY18
			2H	1H	2H	以降	
マザーミルの強化	君津	第3高炉休止	★3月				
	八幡	鉄源最適生産体制構築					★ FY18～20予定
	鹿島・君津	コークス炉リフレッシュ		★ (鹿/1F) 8月竣工	★ (君/第4A) 8月立上	★ (君/第4B) 1月稼働	★ (鹿/2E) 4月予定
グローバル事業強化	ICI (米国: クランクシャフト/鍛造プレスライン新設)	第4ライン商業生産開始	★10月				
	NSCh (中国: 自動車向線材/NBC中国の能力増強)	稼働開始	★12月				
	VSB・VBR統合 (伯: 鋼管/パローレックの100%子会社との統合)	経営統合			★10月		
	AGIS (UAE: 建材薄板/第2溶融亜鉛めっきライン)	第2溶融亜鉛めっきライン 商業生産開始			★10月		
	VAM® BRN (ブルネイ: 鋼管/住友商事とのJV)	稼働開始			★11月		
	WTC (米国: 電線管/Wheatland Tube社へ売却)	株式売却契約締結			★12月		
	KOS (インドネシア: 建材/大阪製鐵とPTKSとのJV)	商業生産開始			★1月		
	KNSS (インドネシア: 自動車鋼板/PTKSとのJV)	稼働開始予定				★ FY17予定	
	NSCI (米国: 自動車用線材/二次加工メーカーとのJV)	稼働開始予定				★ FY17予定	
	NS BlueScope (タイ: 建材薄板/第3溶融めっきラインの新設)	第3溶融めっきライン新設					★ FY18予定

日新製鋼 新日鐵住金グループの一員に

新日鐵住金グループとして一体的な事業活動を推進



技術先進性
鉄源を中心としたコスト競争力
グローバル対応力

お客様のニーズに即した
きめ細かな開発営業による
市場対応力



期待される相乗効果

- 呉第2高炉休止
 - ⇒ 大規模投資回避 ~ コア製品戦略強化のための投資に活用
 - ⇒ 鋼片供給による稼働率向上

- ベストプラクティス追求（操業技術、設備・保全等）
- 調達コスト削減（原料、資機材等）
- 効率的生産追求（グループ全体での効率化）
- グループ会社効率化
- 資金・キャッシュフロー対策

200億円/年以上の
シナジーを想定

公取認可以降、具体的検討に入り、
早期効果発揮すべく取組中



新日鐵住金

NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL

海外下工程生産能力

* ウジナス、アセリクス含まず。持分比率反映前単純合算。
 下線あり:連結子会社 下線なし:持分法適用関連会社
 ()内:出資比率 :日新傘下の海外事業会社

2012年度末 900^{*}万t

2016年度末 1,900^{*}万t

日新子会社化 2,100^{*}万t

自動車

資源エネルギー

インフラ

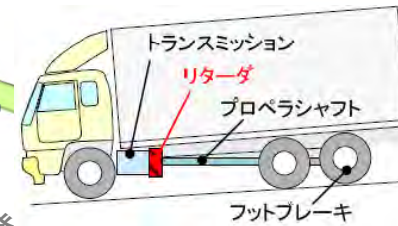
他

地域	自動車	資源エネルギー	インフラ	他
アセアン	タイ	【薄板】NS-SUS (80%) 【鋼管】NSPCT (58%) 【棒線】NSSPT (59%)		【薄板】NSBS (50%) 【ブリキ】STP (16%)
	インドネシア	【薄板】KNSS (80%) 2017~ 【鋼管】INP (90%)		【薄板】NSBS (50%) 【形鋼】KOS (80%) 2017~ 【ブリキ】Latinusa (35%)
	ベトナム	【鋼管】VSP (60%)		【薄板】CSVC (30%) 2013~ NSBS (50%) 【鋼管】NPV (76%)
	マレーシア	【薄板】BNA (50%) 南通 (90%) ZNW(55%) 【SUS冷延】宝新(20%) 【棒線】NSCh (25%) 2015~ Suzuki Garphyttann(100%)	【鋼管】宝鷄 (25%)	【薄板】NSBS (50%) 【ステンス冷延】 Bahru (30%) 【薄板】N-EGALV (50%)
中国	【鋼管】GYA(66%)、WNSP(71%) 【クランクシャフト】惠州(60%)		【ブリキ】WINSteel (50%) 2013 PATIN (25%)	
インド	【薄板】JCAPCPL (49%) 2014~ 【鋼管】NPI (99%)			
他アジア	【クランクシャフト】SMAC (40%)	【継手】VAMブルネイ2015~		
中近東		【鋼管】NPC (60%)	【薄板】AGIS (20%)	
欧州	【棒線】Suzuki Garphyttann(100%)			
米国	【薄板】I/N TEK(40%) I/N KOTE(50%) AM/NS Calvert (50%) 【棒線】NSCI (42%) 2017予定 Suzuki Garphyttann(100%) 【鋼管】 NAT (89%) 【クランクシャフト】ICI (80%)	【鋼管】PEXCO (30%) STL(100%) 【継手】VAMUSA(34%)	【薄板】NSBS (50%) Wheeling-Nisshin (100%)	【鋼管】STI (80%)
メキシコ	【薄板】TENIGAL (49%) 2013~ 【鋼管】NPM (74%)2013~		【鉄道車輪】SS (80%)	
ブラジル	【薄板】UNIGAL (29%)	【鋼管】VSB (15%)		

技術先進性の発揮

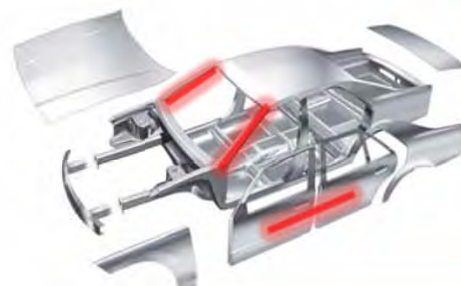
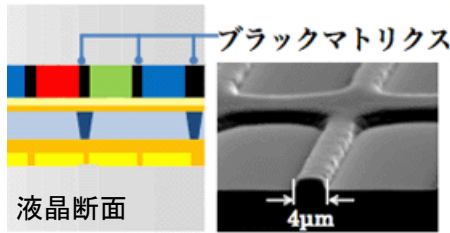
文部科学大臣表彰 科学技术賞(開発部門)

永久磁石式小型軽量の補助
ブレーキ装置(リターダ)の開発



市村産業賞 功績賞

高画質LCD(液晶ディスプレイ)向け
ブラックマトリレジストインキの開発
(「エスファイン®」シリーズ)



3次元熱間曲げ角型鋼管による 自動車ボディ骨格部品を開発

金型を使用せずに複雑な形状の超高強度
(1,500MPa)鋼管を、高効率で生産可能に

高耐食黒色めっき鋼板 「黒ZAM®」開発・商品化



めっき層自体を黒色化。
高加工部でも美しい外観。

薄膜黒色プレコート



黒ZAM®



2016

TOP 100
GLOBAL
INNOVATORS

「世界で最も革新的な企業
トップ100社」



特に、継続的な特許成功率が
高い評価を得て、5年連続で選出



新日鐵住金

NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL

4. 参考

主要需要分野の活動水準

〔国内〕		FY15 年度	FY16					*2 (前回 見通し)	年度	FY17 1Q *3 見通し	差異		
			1Q	上期	4Q	下期	16/上 → 16/下				15年 → 16年	16/1Q → *3 17/1Q見	
建設	住宅着工戸数 (万戸)	92	25	50	21	46	(95)	96	24	-4	+4	-1	
	非住宅着工面積 (万㎡)	4,999	1,359	2,679	1,236	2,483	(5,162)	5,162	1,323	-196	+163	-36	
	公共工事受注*1 (10億円)	10,142	1,904	5,333	2,950	5,209	(10,803)	10,542	2,260	-124	+400	+356	
自動車	完成車生産台数 (万台)	919	211	441	255	495	(940)	936	226	+54	+17	+15	
	完成車輸出台数 (万台)	458	108	226	124	251	(477)	477	120	+26	+19	+12	
	海外生産(8社) (万台)	1,784	462	919	489	971		1,890		+52	+106		
産業機械	大中型ショベル (千台)	63	15	31	14	30	(61)	61	17	-1	-2	+1	
	金属工作機械 (千ト)	452	88	178	93	185	(360)	363	85	+7	-88	-2	
造船	新造船起工 (万グロスト)	1,283	307	634	290	580	(1,194)	1,214	290	-54	-69	-17	

リグカウント状況	CY09	CY10	CY11	CY12	CY13	CY14	CY15	CY16	CY17	直近	直近ピーク	直近ボトム
米国	1,089	1,546	1,875	1,919	1,761	1,862	977	510	739	847 ('17/4)	2,031 ('08/9/12)	404 ('16/5/20)
深井戸(≥15,000ft)	249	249	395	324	326	354	205	126	204	211 ('17/2)	413 ('11/11)	98 ('16/5)
北米・露・中を除く世界	997	1,094	1,167	1,234	1,296	1,337	1,167	955	939	943 ('17/3)	1,382 ('14/7)	920 ('16/10)

(出所:各種統計資料・当社推定) *1 建設工事受注動態統計の公共工事受注額

*2 前回(2/2)公表値

*3 3月上旬見込み値



新日鐵住金

NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL

国内主要需要分野の鋼材消費

(単位:万ト)	FY15 年度	FY16				*1 (前回 見通し)	年度	FY17 1Q 見通し	差異		
		1Q	上期	4Q	下期				16/上 → 16/下	15/年 → 16/年	16/1Q → 17/1Q見*2
全国粗鋼生産量	10,423	2,621	5,255	2,623	5,261	(10,523)	10,516	2,599	+6	+93	-22
国内鋼材消費	6,088	1,479	3,024	1,548	3,137	(6,161)	6,161	1,505	+113	+73	+25
製造業比率 (%)	63.9	63.3	63.1	62.9	62.5	(62.7)	62.8	63.2	-0.6	-1.1	-0.1
普通鋼鋼材消費	4,843	1,169	2,391	1,238	2,497	(4,888)	4,888	1,186	+106	+45	+17
建設	2,115	517	1,058	550	1,123	(2,187)	2,181	526	+65	+66	+10
製造業	2,728	652	1,332	688	1,374	(2,701)	2,707	660	+42	-21	+7
ウチ、造船	432	106	213	99	199	(408)	412	99	-14	-20	-7
ウチ、自動車	1,076	256	531	286	571	(1,103)	1,102	269	+40	+26	+13
ウチ、産業機械	461	109	223	112	224	(448)	447	112	+1	-14	+3
ウチ、電気機械	292	68	142	74	144	(286)	285	67	+2	-6	-1
特殊鋼鋼材消費	1,245	310	633	310	640	(1,273)	1,273	319	+6	+28	+8
鋼材輸入	637	150	308								
鋼材輸出	4,119	1,028	2,070								

(出所:各種統計資料・当社推定)

*1 前回(2/2)公表値

*2 3月上旬見込み値

世界の経済成長率推移

<2017年4月18日IMF改定値>

前回(2017.1.16)

	CY08	CY09	CY10	CY11	CY12	CY13	CY14	CY15	CY16		CY17 見通し		CY18 見通し	
世界 合計	3.0	-0.5	5.3	3.9	3.4	3.4	3.4	3.4	(3.1)	3.1	(3.4)	3.5	(3.6)	3.6
先進諸国	0.5	-3.4	3.2	1.7	1.2	1.4	1.9	2.1	(1.6)	1.7	(1.9)	2.0	(2.0)	2.0
米国	0.4	-2.6	3.0	1.8	2.3	2.2	2.4	2.6	(1.6)	1.6	(2.3)	2.3	(2.5)	2.5
欧州	0.6	-4.1	1.9	1.5	-0.7	-0.4	0.9	2.0	(1.7)	1.7	(1.6)	1.7	(2.3)	1.6
日本	-1.2	-6.3	4.4	-0.6	1.5	1.6	0.0	1.2	(0.9)	1.0	(0.8)	1.2	(0.5)	0.6
新興諸国	6.1	2.7	7.5	6.2	5.1	5.0	4.6	4.2	(4.1)	4.1	(4.5)	4.5	(4.8)	4.8
中国	9.6	9.2	10.4	9.3	7.7	7.7	7.3	6.9	(6.7)	6.7	(6.5)	6.6	(6.0)	6.2
インド	7.3	6.8	10.6	6.3	4.7	6.9	7.2	7.9	(6.6)	6.8	(7.2)	7.2	(7.7)	7.7
ASEAN5*	4.7	1.7	7.0	4.5	6.2	5.1	4.6	4.8	(4.8)	4.9	(4.9)	5.0	(5.2)	5.2
ロシア	5.6	-7.8	4.3	4.3	3.4	1.3	0.7	-2.8	(-0.6)	-0.2	(1.1)	1.4	(1.2)	1.4
ブラジル	5.1	-0.6	7.5	2.7	1.0	2.7	0.1	-3.8	(-3.5)	-3.6	(0.2)	0.2	(1.5)	1.7

(出所: IMF)

* ASEAN 5 : タイ、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム

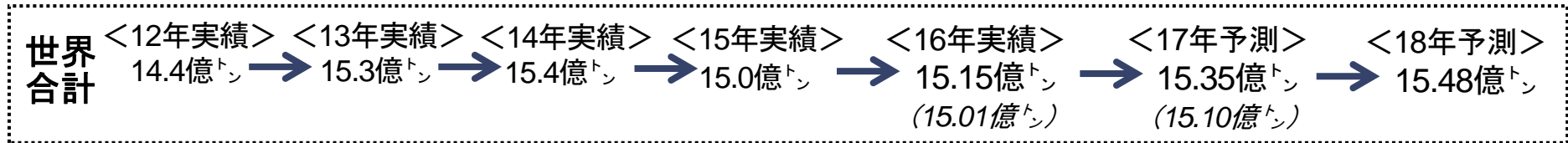


新日鐵住金

NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL

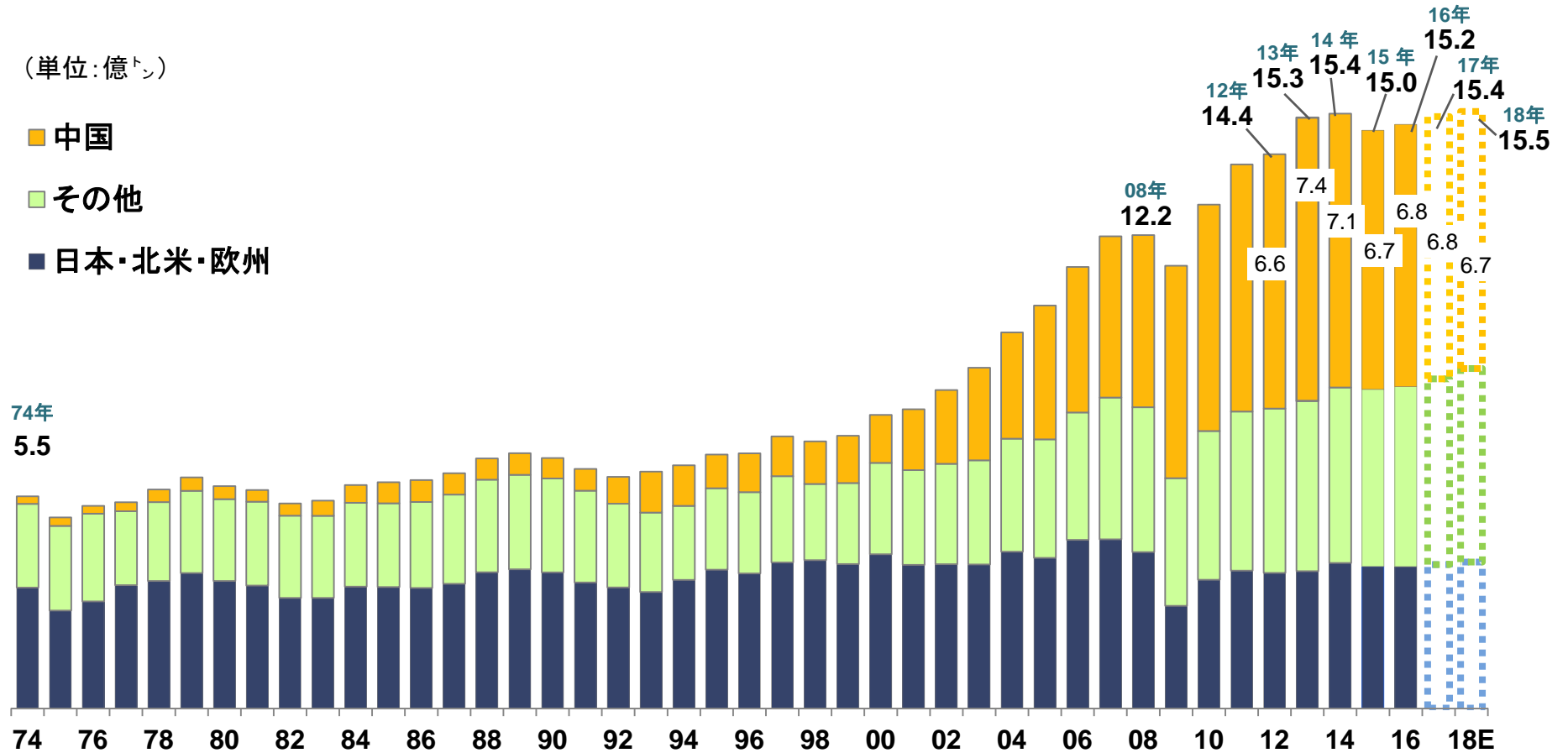
世界の鉄鋼需要推移(鋼材見掛消費) <2017年4月21日WSA改訂値>

前回(2016年10月11日)



(単位:億トン)

- 中国
- その他
- 日本・北米・欧州



(出所: World Steel Association)

世界月別粗鋼生産量

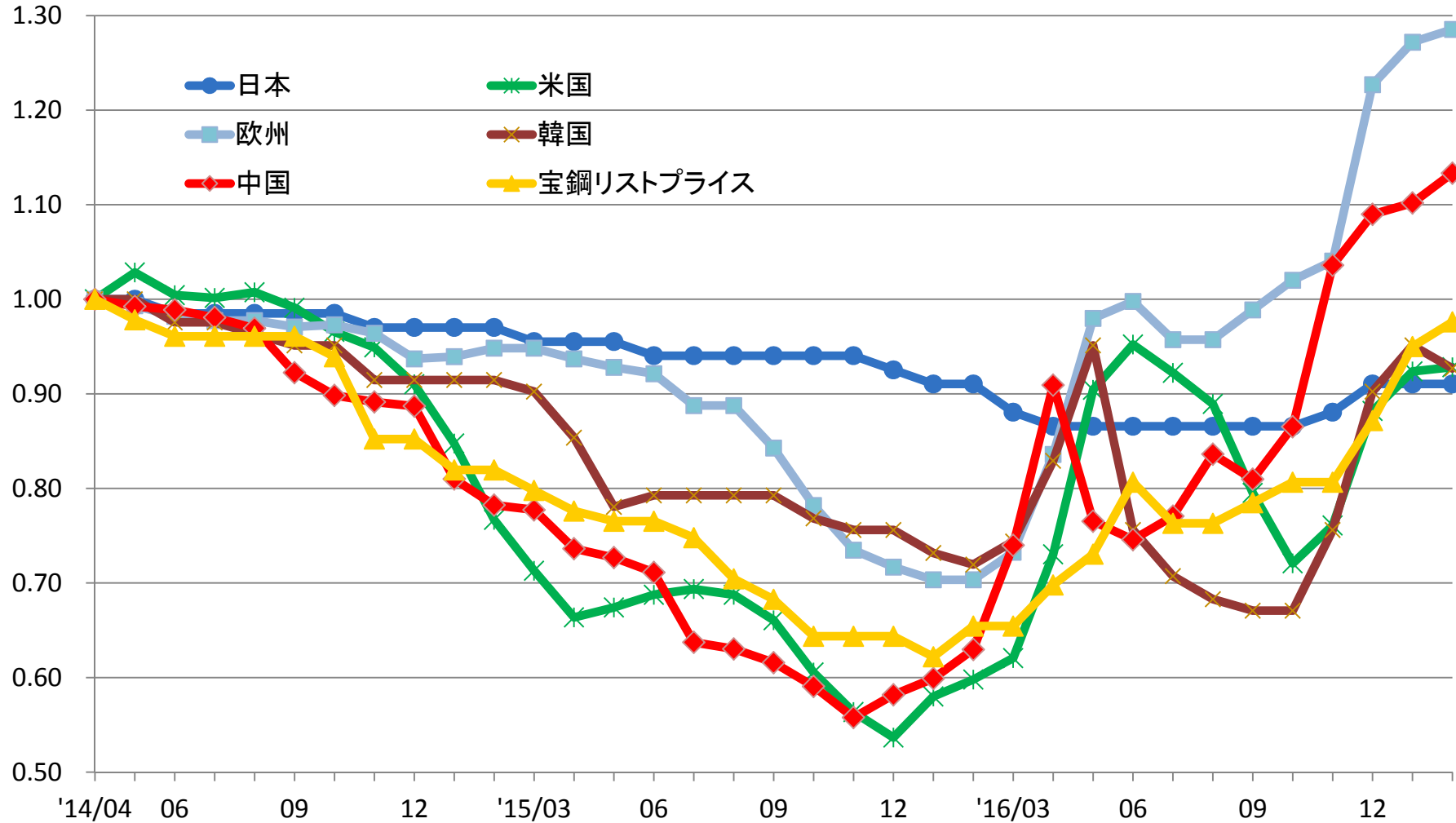
(百万トン)	CY15	CY16								CY17				差異 (A → B)
		1-3	4-6	7-9	10	11	12	10-12 [A]	1	2	3	1-3 [B]		
世界計* (前年同期比)	1,597.8 (-3.0%)	386.0 (-3.3%)	410.2 (-0.1%)	401.8 (+1.6%)	136.8 (+3.2%)	132.1 (+4.6%)	134.1 (+6.2%)	403.0 (+4.6%)	1,604.0 (+0.4%)	137.8 (+8.6%)	126.6 (+4.5%)	145.0 (+5.1%)	410.5 (+6.4%)	+7.6 (+1.9%)
日本 (前年同期比)	105.2 (-5.0%)	25.8 (-3.4%)	26.2 (+1.4%)	26.3 (+0.5%)	9.1 (+0.5%)	8.6 (-1.4%)	8.7 (+1.5%)	26.4 (+0.2%)	104.8 (-0.4%)	9.0 (+2.7%)	8.3 (-0.1%)	8.9 (+1.8%)	26.2 (+1.5%)	-0.2 (-0.6%)
韓国 (前年同期比)	69.7 (-1.9%)	16.5 (-2.4%)	16.9 (-3.8%)	17.6 (+1.6%)	6.0 (-2.0%)	5.7 (-2.5%)	5.9 (-0.2%)	17.5 (-1.6%)	68.6 (-1.6%)	5.6 (-0.5%)	5.5 (+8.3%)	6.1 (+6.4%)	17.3 (+4.6%)	-0.3 (-1.5%)
米国	78.8	19.7	20.4	19.5	6.2	6.2	6.6	19.0	78.6	7.0	6.4	7.0	20.4	+1.4
EU28	166.1	40.9	41.8	38.7	14.3	13.5	13.1	40.9	162.3	14.1	13.4	15.0	42.5	+1.7
ロシア	70.9	17.2	17.8	17.7	5.9	5.9	6.2	18.1	70.8	6.2	5.6	6.2	18.0	-0.1
ブラジル	33.3	7.4	7.4	8.1	2.7	2.4	2.1	7.3	30.2	2.8	2.6	2.9	8.2	+1.0
インド	89.4	23.3	23.7	24.3	8.3	7.7	8.4	24.4	95.6	8.6	8.1	9.0	25.8	+1.4
中国 (前年同期比)	803.8 (-2.3%)	191.7 (-3.2%)	209.4 (+1.3%)	203.5 (+2.3%)	68.5 (+3.6%)	66.3 (+4.7%)	67.2 (+4.4%)	202.0 (+4.2%)	808.4 (+0.6%)	67.6 (+8.0%)	61.2 (+4.6%)	72.0 (+1.9%)	201.1 (+4.9%)	-0.9 (-0.5%)

(出所 : World Steel Association)

* 世界66カ国の合計値

世界各国ホットコイル市況推移

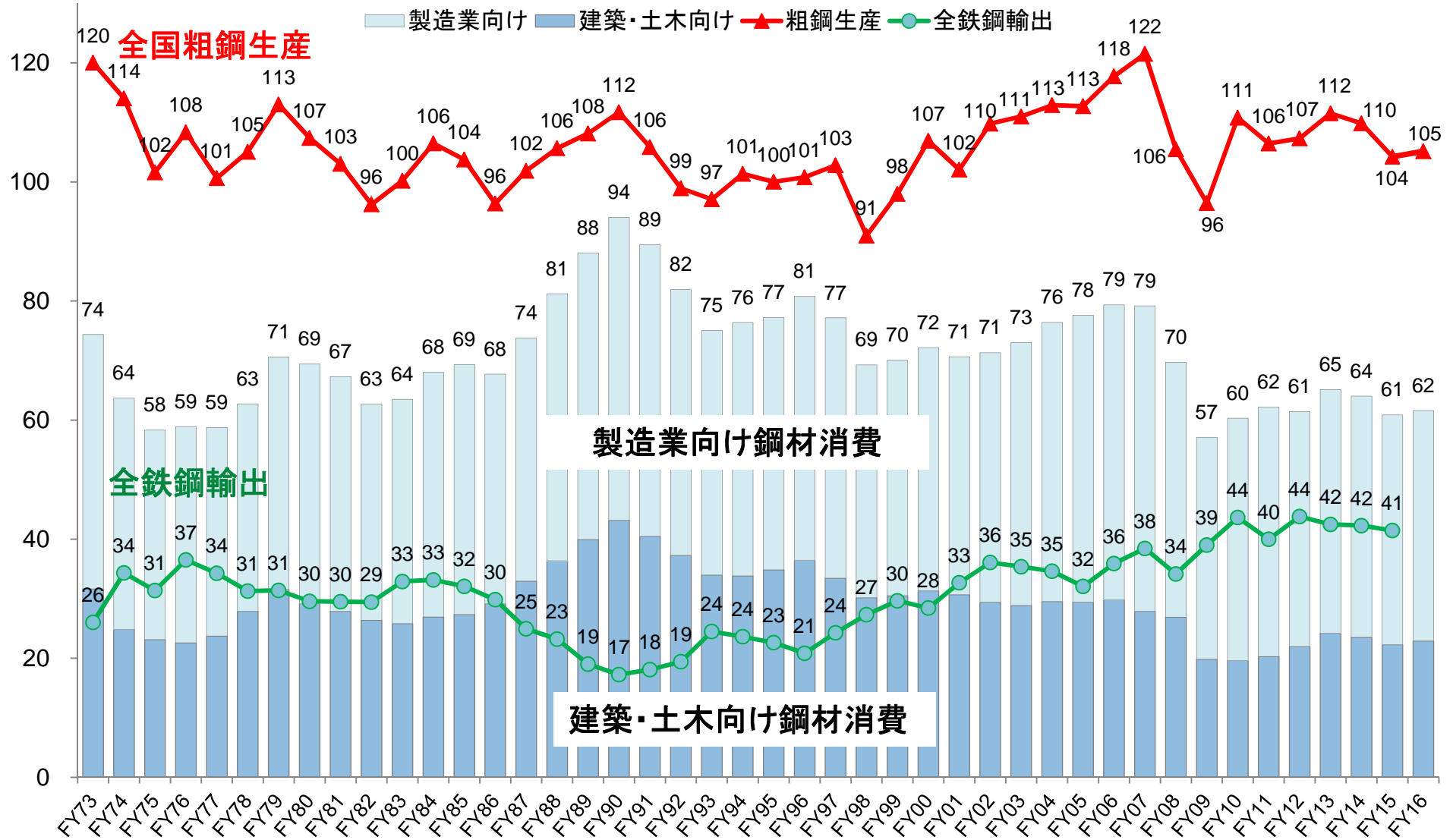
(2014年4月各現地通貨ベースホットコイル価格=1.0)



(出所: 日本鉄鋼連盟等データより当社作成)

国内鋼材消費推移

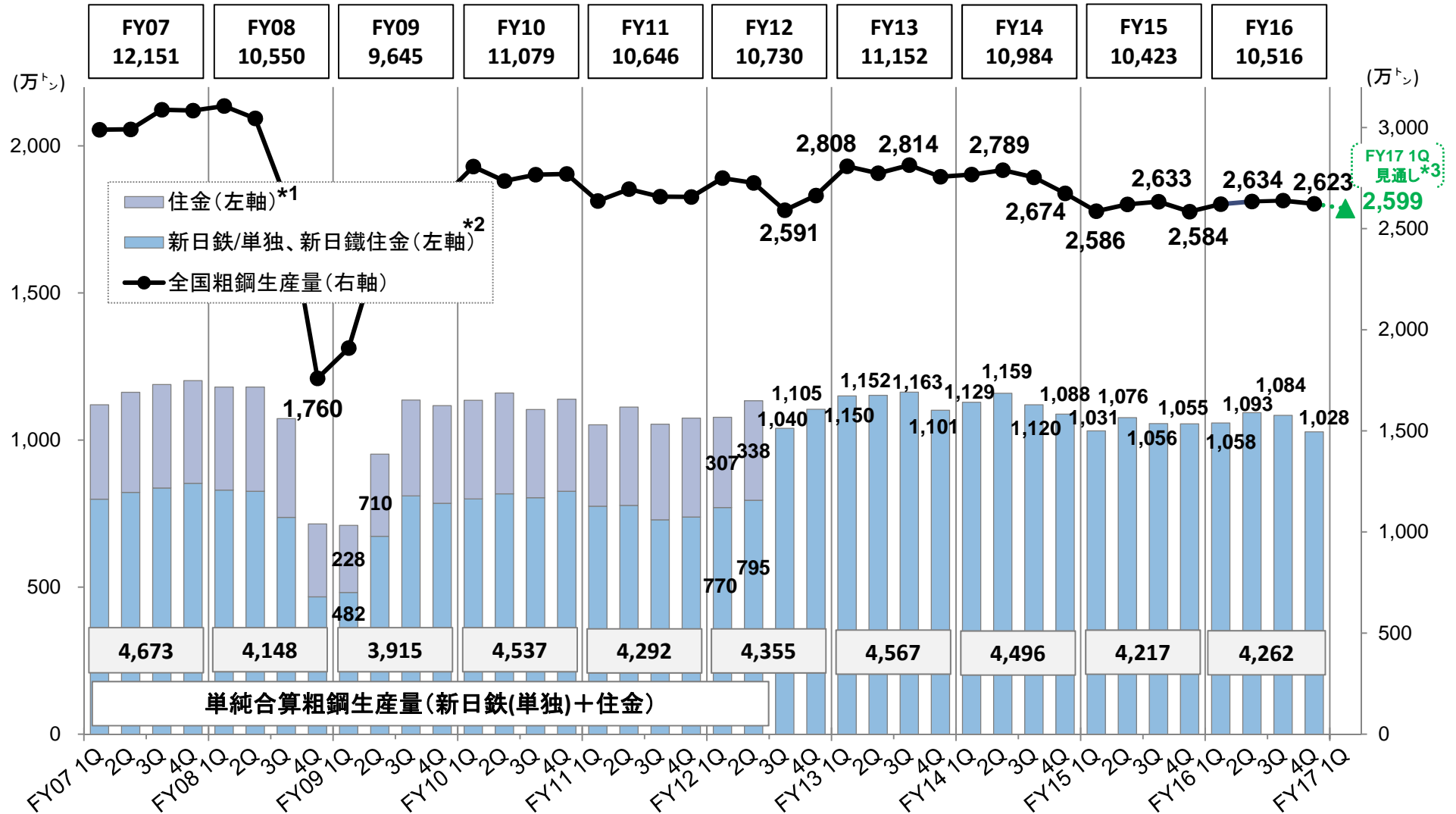
(百万ト)



(出所:各種統計資料・当社推定)

国内粗鋼生産量 四半期別推移

全国粗鋼生産量



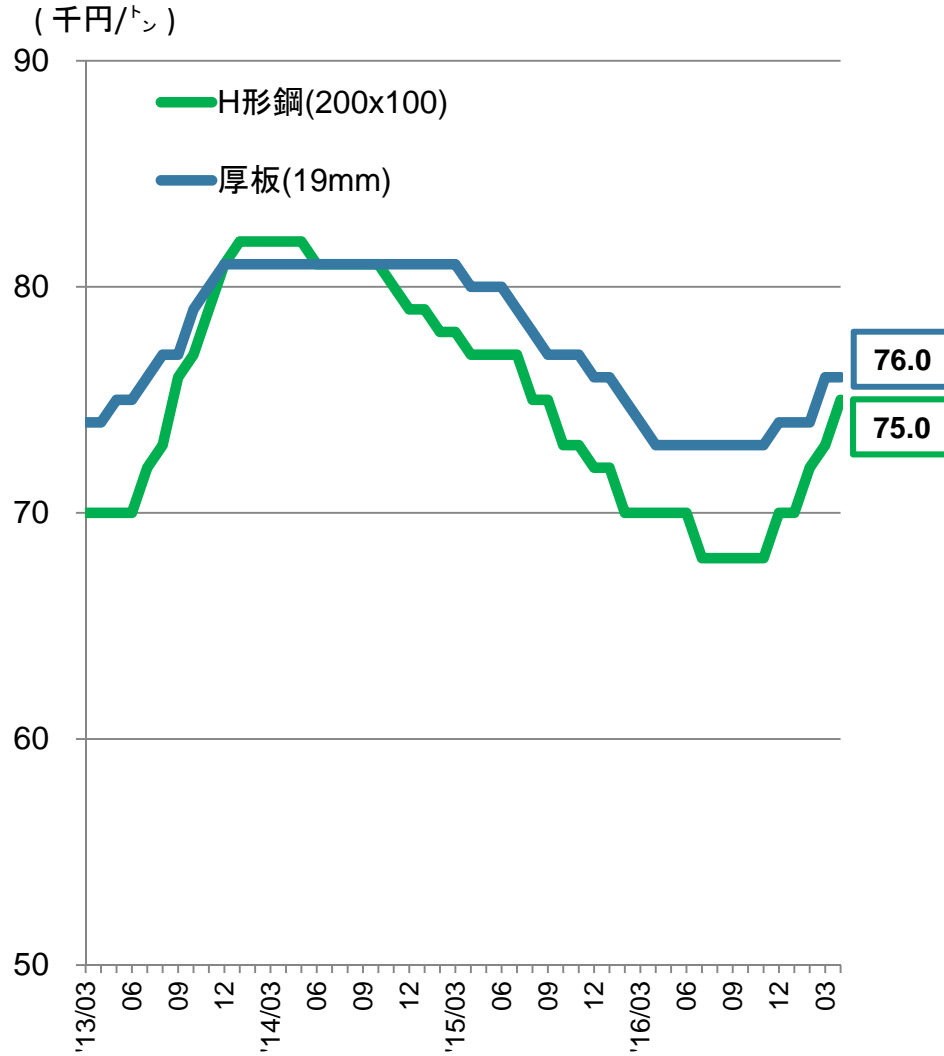
*1 住金: 旧住金小倉・住金直江津・住金鋼鉄和歌山含み

*2 新日鐵住金: 日鐵住金鋼鉄和歌山含み

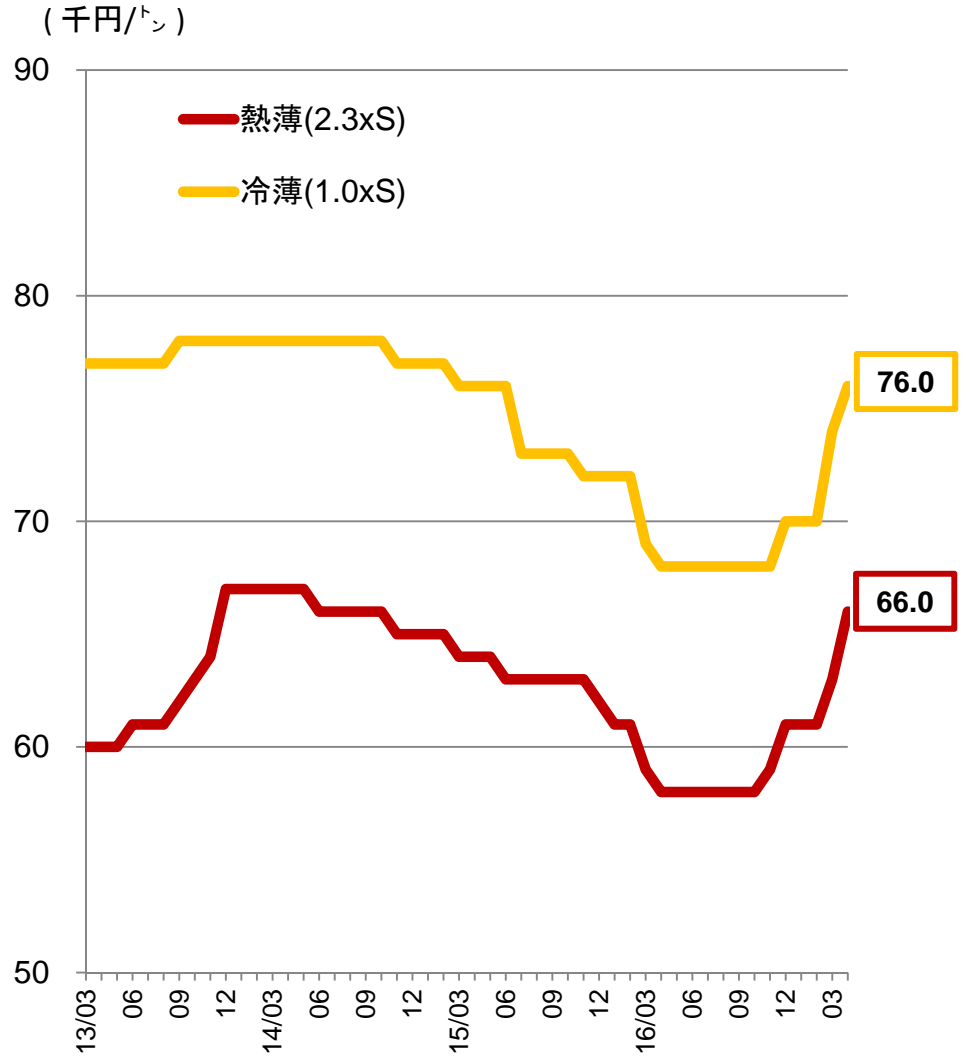
*3 経済産業省発表 FY17.1Q鋼材需要見通し

国内鋼材市況（店頭価格）

厚板・H形鋼



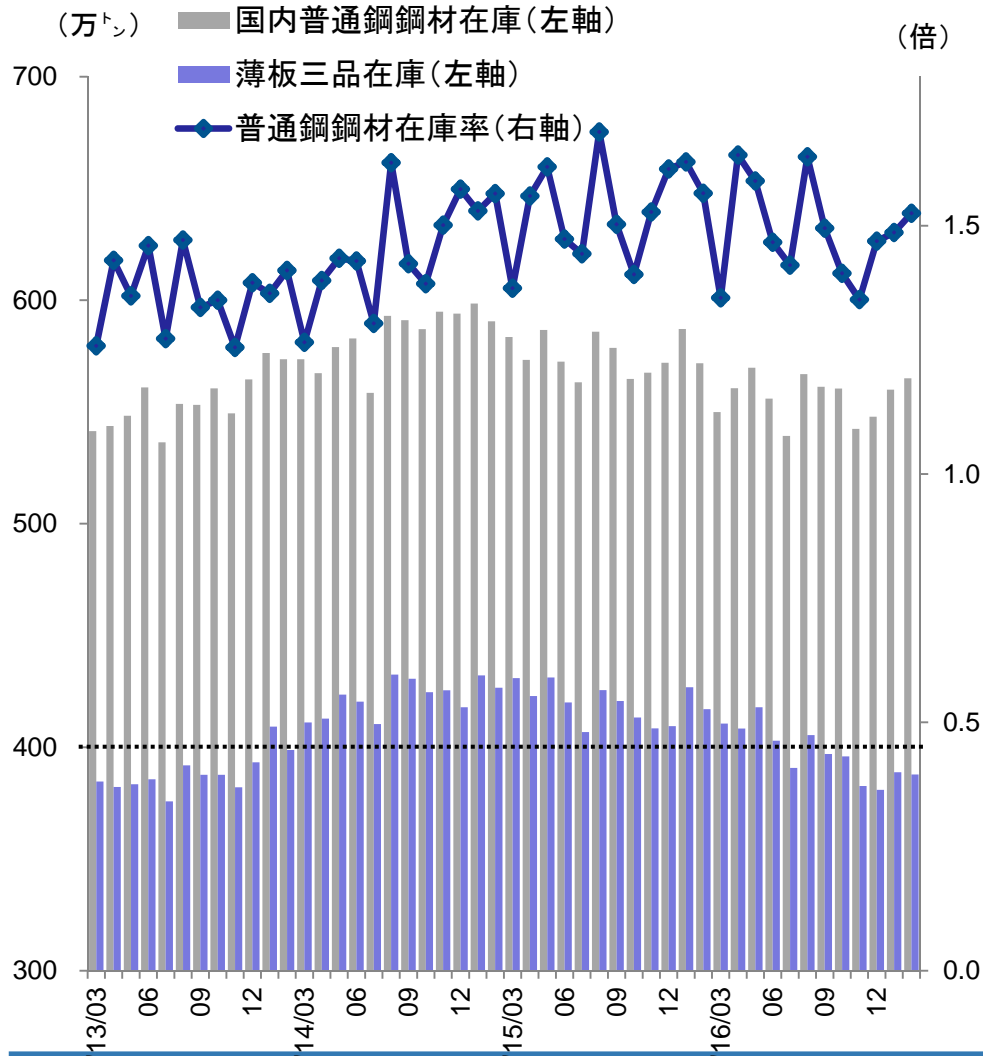
熱延・冷延



(出所: 鉄鋼新聞・月末・東京安値、問屋間仲間相場価格)

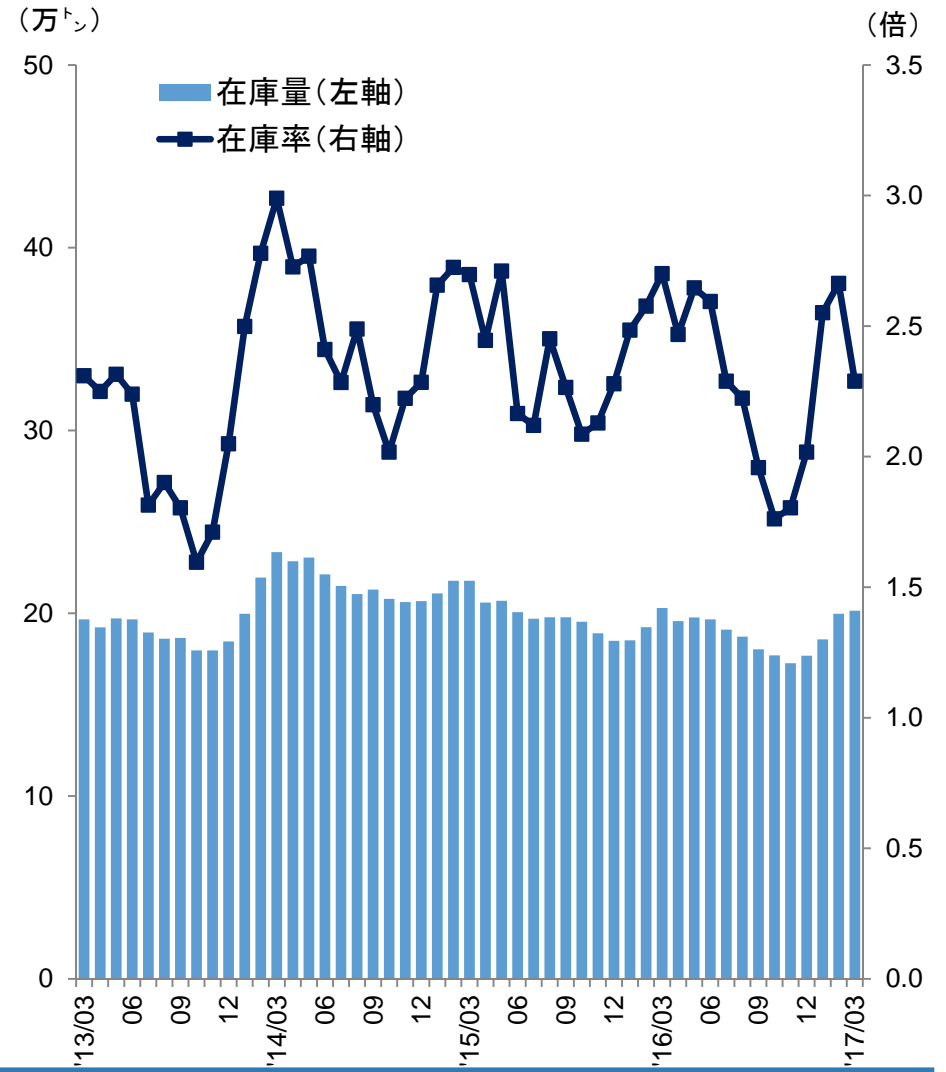
国内鋼材在庫推移

普通鋼鋼材・薄板三品在庫



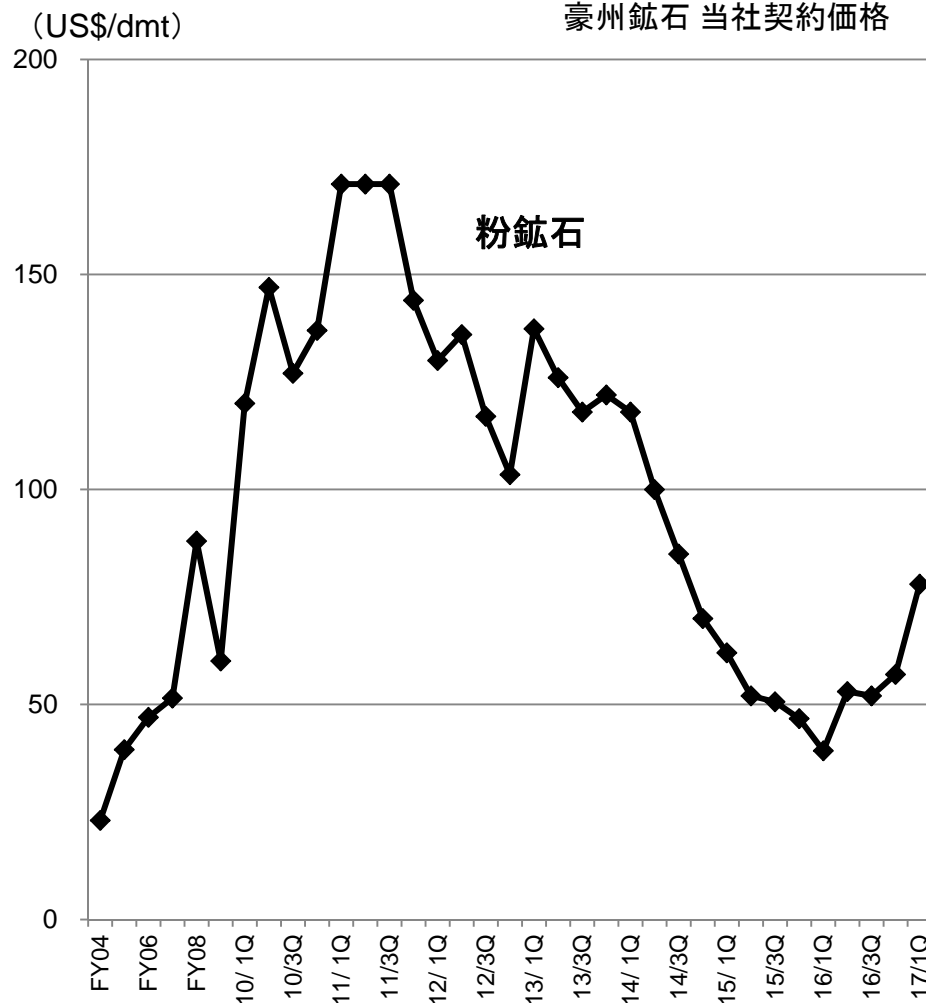
(出所: 日本鉄鋼連盟)

ときわ会(H形鋼)在庫



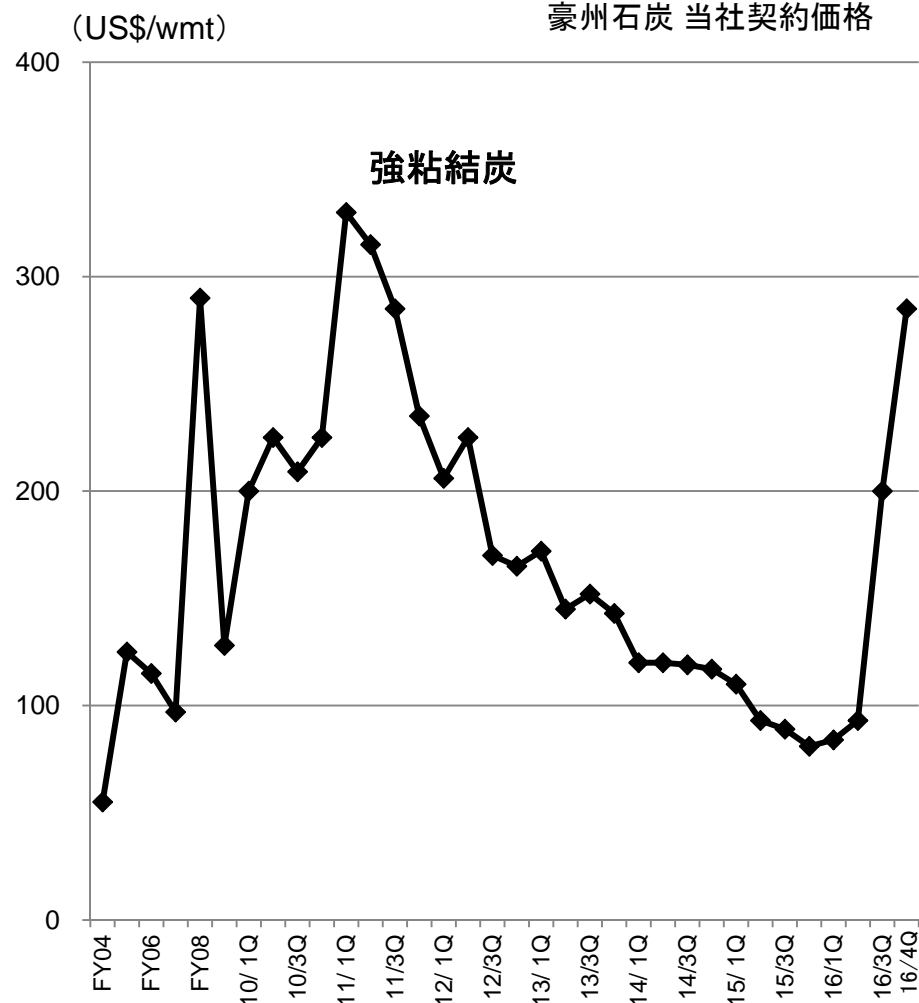
鉄鉱石

豪州鉄鉱石 当社契約価格



原料炭

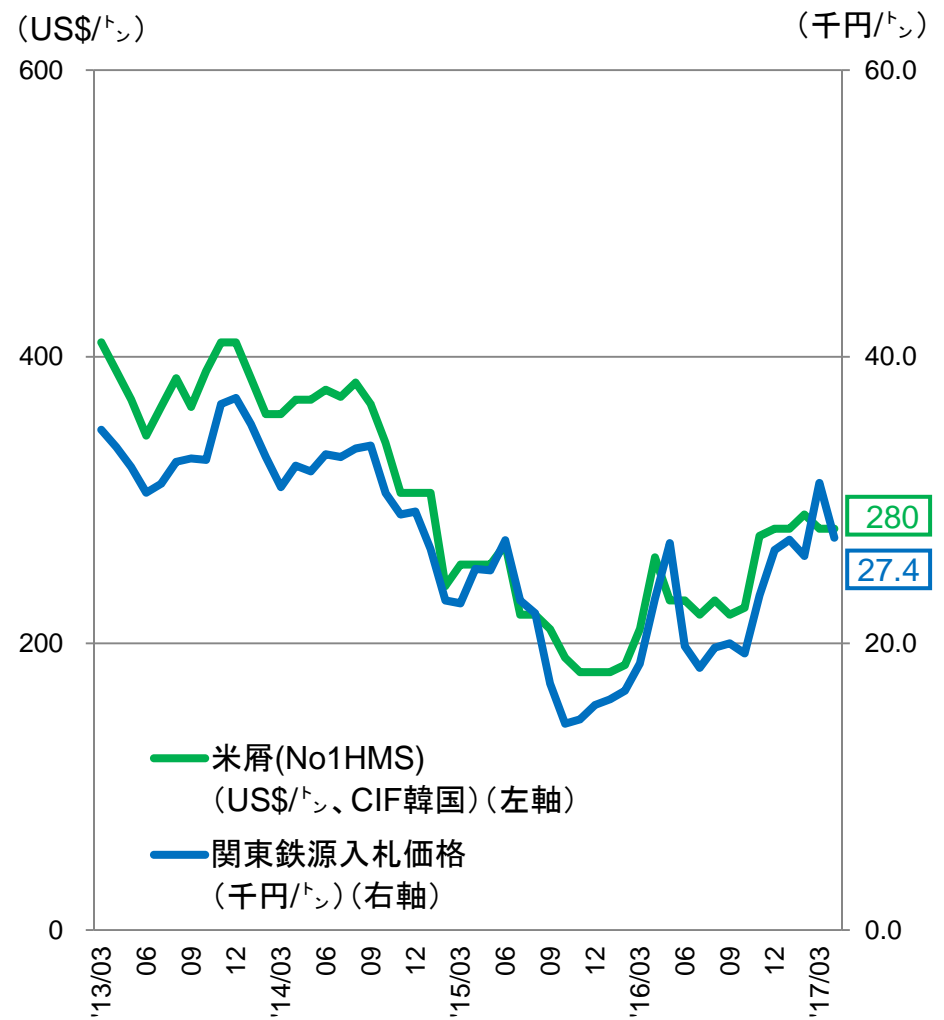
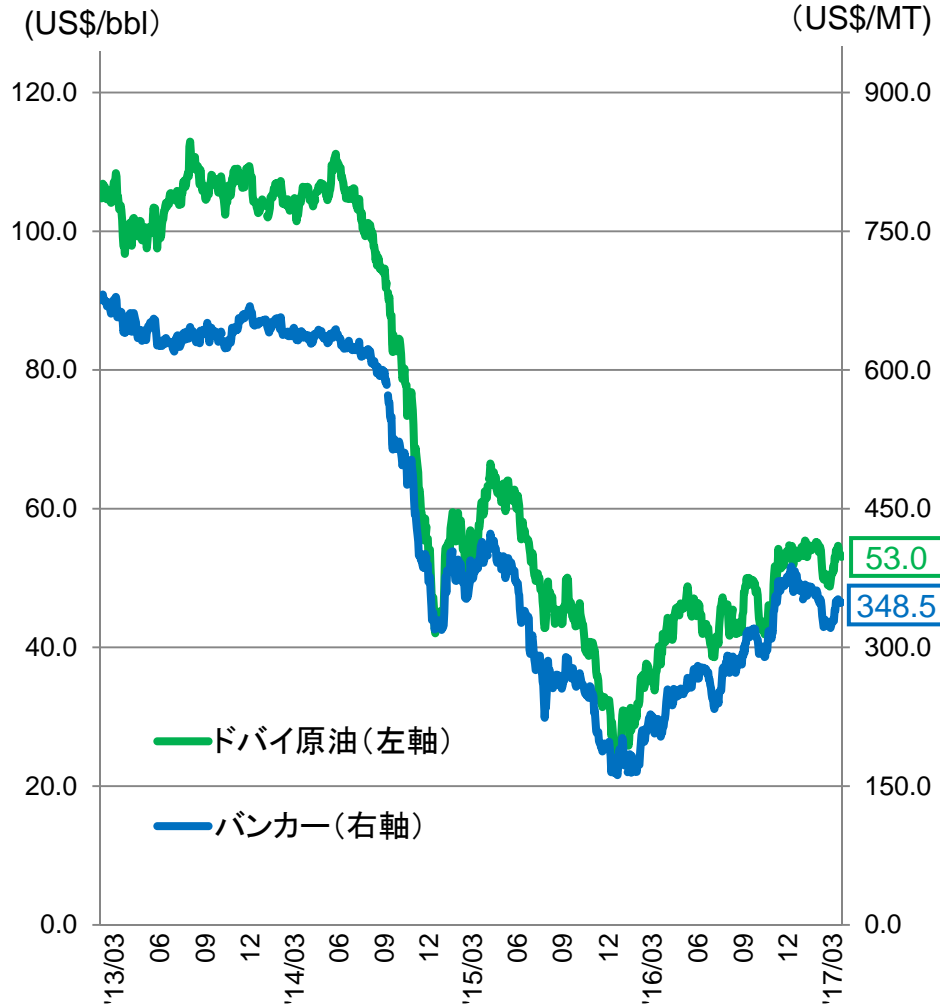
豪州石炭 当社契約価格



原料市況 <原油・スクラップ>

原油

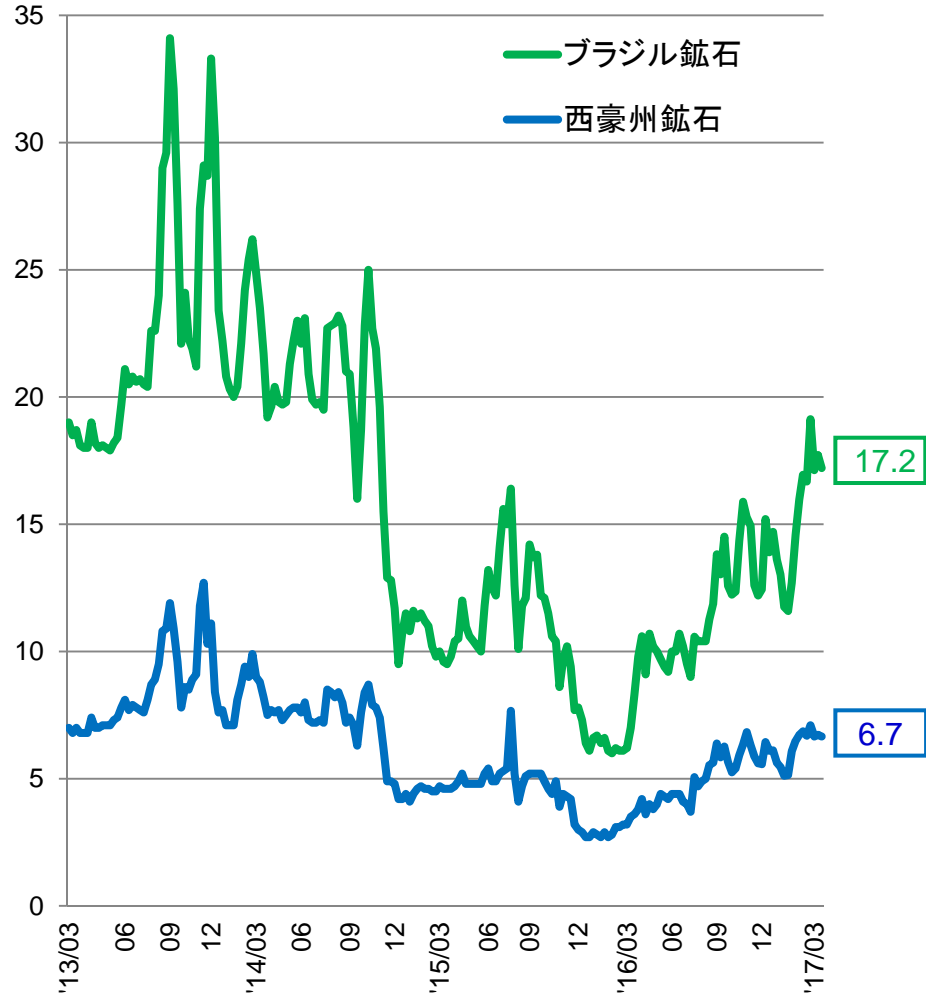
スクラップ



原料市況 <フレート・型鉄>

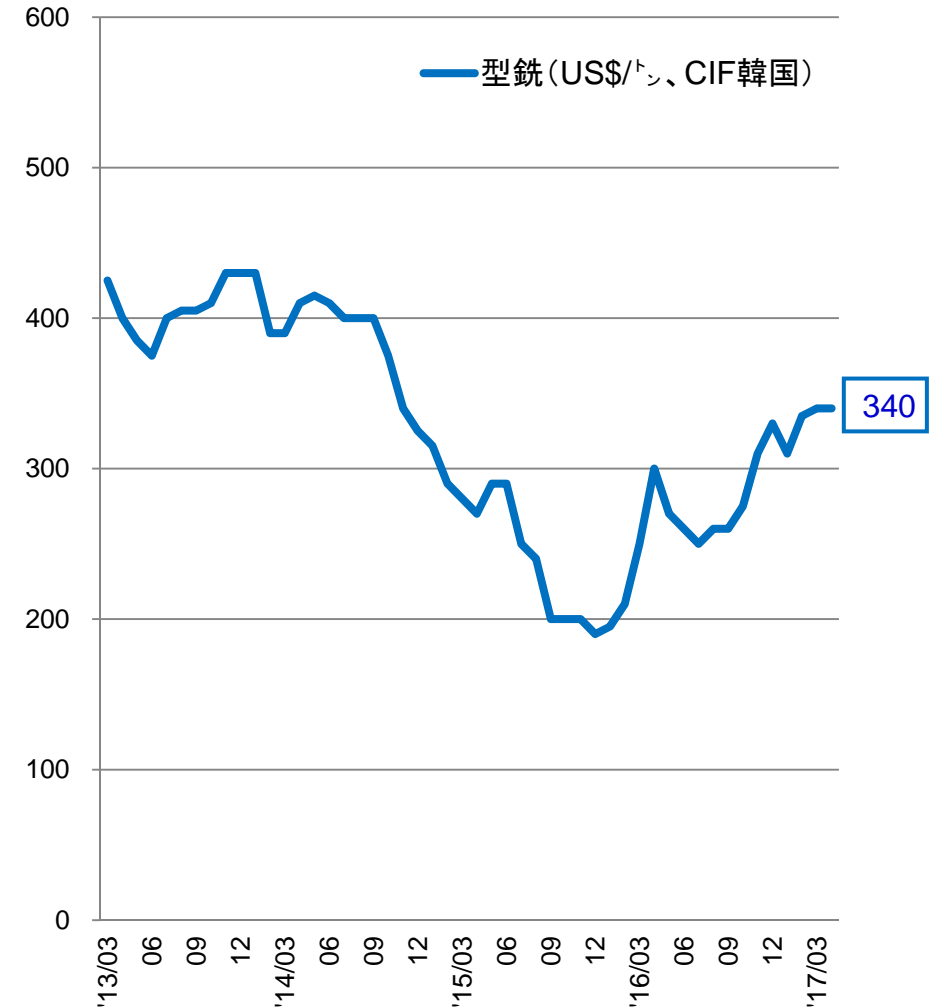
フレート

(US\$/WMT, ケープサイズ 170千t船型)



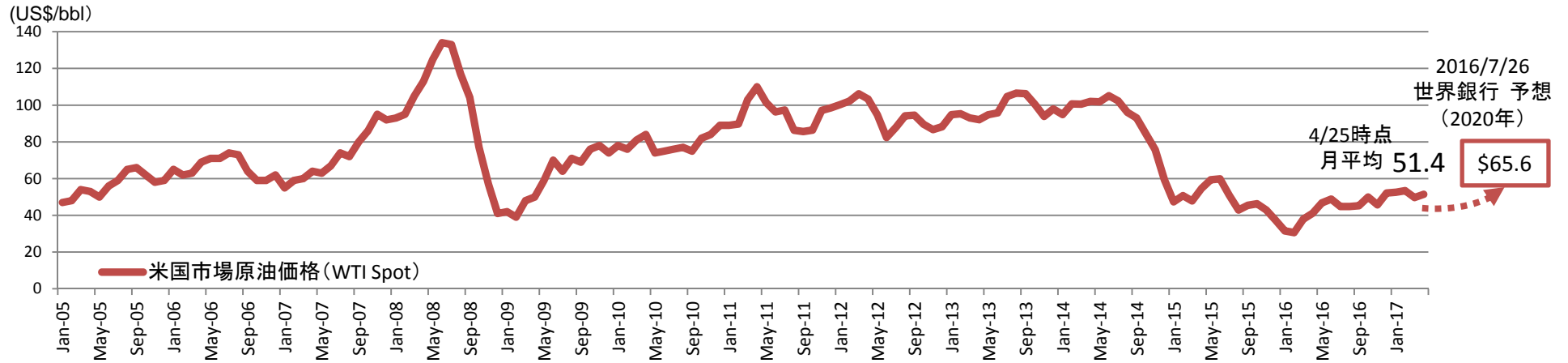
型鉄

(US\$/T, CIF 韓国)

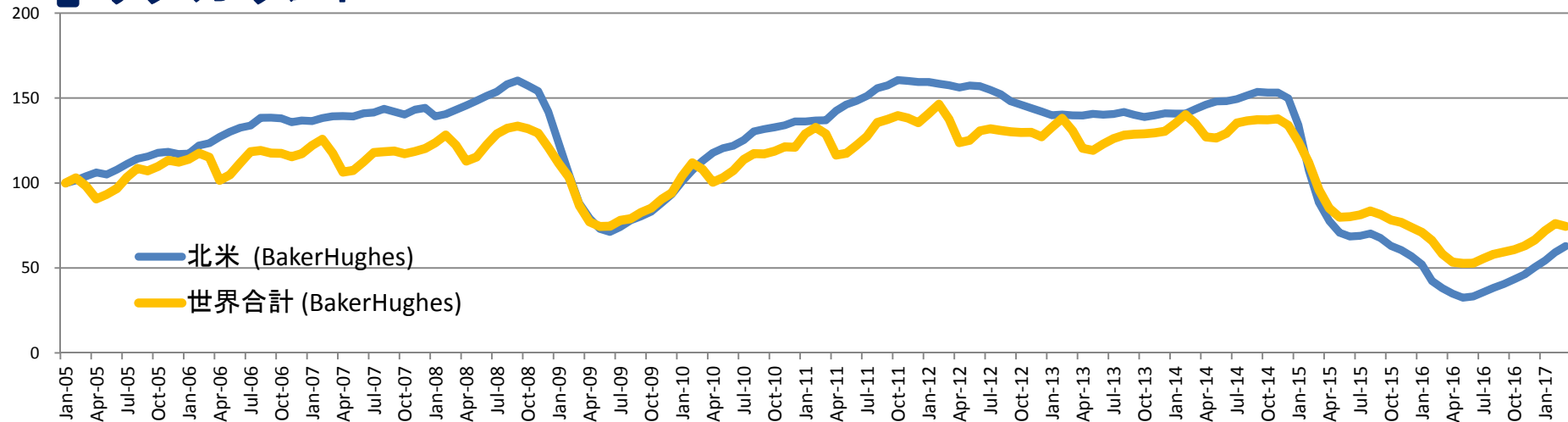


エネルギー関連指標の推移

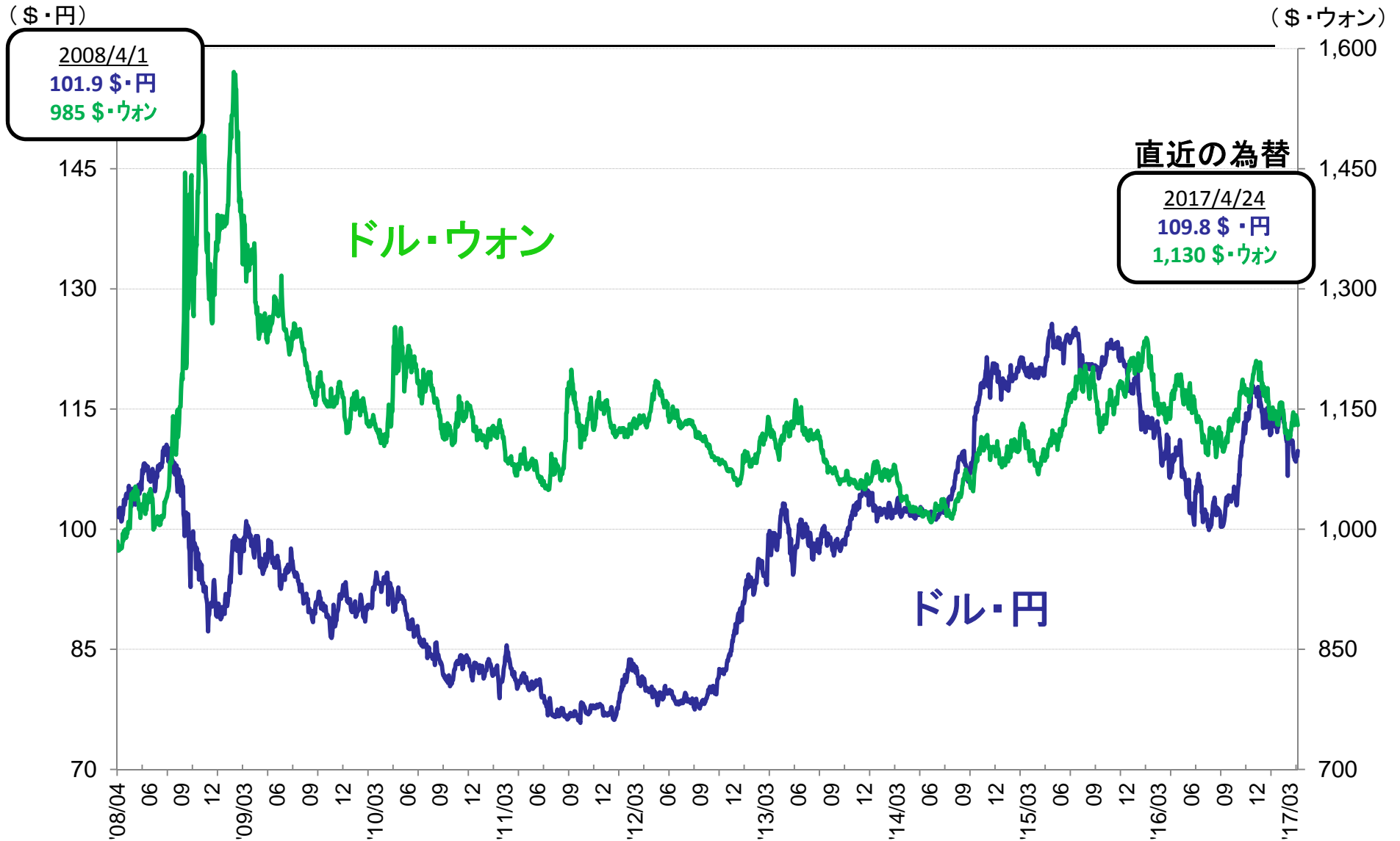
原油価格



リグカウント (2005年1月=100)



為替推移 (ドル・円, ドル・ウォン)



本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料でなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、説明会の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。